トゥリナーティ　副詞。連れ並んで——連れ添つて。
ハナーサ　トゥリナーティ　アッチュイ　睦しげに、連れ並んで、歩く。
トゥリユイ、ツリユイ(小野)　連れる——伴ふ。
ウィートゥリユイ　後れまいとして追ふやうについて行く。
トゥル、トゥルン・ドゥイ　鶴。
トゥルヂュイ　續く。トゥドゥチュイに似てゐるが專ら物體の連續せるにいふ。
トゥルトゥル　うつら〳〵——眠りに陷らうとし、又は醒めようとする時の狀態。
トゥワ、ツガ(小野)　穀物、主として米麥。
トゥワ、ツヤ(小野)　通夜。死者のあつた場合、又は旅立つた者のあつた場合に、其の夜近親集つて通夜をする。旅立の場合は、三日目の夜更にトゥミ・トゥワ（止め通夜）を行ふ。
トゥワイ　つはり——悪阻。
トゥワムン、ツワムン(小野)　意志の强い人、臆しない人。又力の强い者などにいふ。
トゥンガユイ、トゥンガウイ(阿)　水につかる。又は水が溢れる程湛へる。
トゥンガイ・イスー　泳ぎながら水中眼鏡を用ひ、魚を釣るその漁法をいふ。イスは漁の意。
ター　ヤ　ミドゥ　トゥンガティ　ウイ　田、は、水(が)、溢れる程湛へて、ゐる。
トゥンダミ、ツッダミ(小野)　三味線の緒試——ねじめ。
トゥンヂュイ　交尾する——つるむ。

トゥンニャーシュイ　絲や繩などを繋ぎ合はせる。
トゥンニャーウー(阿)　蝸牛。
トゥンヌミ　嚥下。
ハディ　フィチ　トゥンヌミ　シララン　風邪(を)、引いて、唾呑みが出來ない（喉が痛む場合）。
トゥンベー、ツッベー(小野)　唾。
トゥンミユイ　手に携へる——輕い物の場合。例「風呂敷包などトゥンミティ何處へ行くのだ」。

〔テ　無氣音〕

テー　二重——二廻り。
テン(上嘉)　助詞。と。チに同じ。
クー　テン　イチ(上嘉)　來い、と、云つた。
ヌー　テン(上嘉)　何だつて——疑ひ問ふ言葉。

〔ト　無氣音〕

トートー(兒)　お月樣、又は位牌。

トール　接尾語。人を敬ひ數へる語。古語ところ。タイ参照。
イク・トール　何人様といふ程の意。
ミ・トール　三人様。

〔ダ〕

ダ　汝、自己と同等以下の者にいふ語。ウラー及びナーミ参照。
ダー(阿)　アクセントを尻下りにすると汝のとなり、尻上りにすると汝はとなる。小野津では後者の場合はダヤとなる。
ダヌ(阿)　汝が。

ダーイ　接尾語。動詞に着いて、事の將に起らんとする頃ほひといふ意を表はす。堺(ザカイ)の義か。
ティダ　ヌ　アガイ・ダーイ　太陽の、將に上らんとする頃。

ダーヌー　甘蔗の根から派生するひこばえ。

ダーリティ　接尾語。——めきて。
ウフッチュ・ダーリティ　ウイ　大人めいて、ゐる。

ダイ、ダリ(上嘉)、**ダイカ**　なる程——いふ通り。強く肯定する語。例「僕が言つた様にやつぱり雨になつたね」、「ダイ、降つて來たやうだな」。イユンナッシとも言ふ。

ダイバン　大きな體格。又は並のものに比して大なるものにいふ。

ダイヤミ　晩酌。鹿兒島でダレヤミ。

ダク　樂——らく。
ダク　ナインショーリ　お樂になさい。
ダクダク　樂々——容易に。

ダチ　埒。左の例の場合にのみ用ひられる。
ダチ・アカン　埒があかぬ——仕事がはかどらぬ。
ダチ・アチュイ　埒があく——仕事がはかどる。

ダティ(老)　伊達——ハイカラ。
ダティ　シュイ　外見をかざる。

ダッカ　品——しな。大島語の輸入されたもので、中年以下に用ひられる。
ダッカ　ヌ　ネーン　品がない——格好が悪い。

ダッチョー　薤——らつきよう。

ダットウ　簡粗、簡略。
ダットウナ　シダトウ　おろそかな仕事の仕方。又簡單な仕事にもいふ事がある。
ダットウナ　カマイ　簡單な服裝——ざつとした身なり。

ダットウー　流人。ダンチューともいふ。竄所者の意か。昔配流されて來た者に對して言つたといふ。

ダットウー・ドゥイー　羽をすぼめて元氣のない鷄にいふ。

ダナ　助詞。希望の意を表はす。ブサより意が強く且感動的である。

ミチミラダナ　見たいものである——の強い表現。

イカダナ　ヤー　行きたいものであるわい。

ダナ　が故に。

ナラナ　ダナ　不遇なるが故に。ナララン・ムン參照。

ダマ　寢ぼけ——まだ意識のはつきりしない狀態。例「此の子はダマして起上るや否や表へ飛出さうとした」。

ダムス（歌言）　さへも。例「鳥ダムス親と共に飛んで歩く」。

ダリユイ　疲れる。日盛りに植物の葉が萎えるのにもいふ。

ダンガサ　蝙蝠傘。ダンは蘭の義。

ダンコー　談合。

ダンツキ（小野・老）、**ダントゥキヂ**（阿・老）　燐寸。トゥキヂに同じ。

ダンバラ・チリラチ　腹が立つて腹が立つて——といふに相當する。例「馬が言ふ事を聞かないので、ダンバラチリラチ馬耕をやめてしまつた」。

ダンポー　ランプ。

ダンミ　目釘——刀や鎌の。

〔ヂ〕

ヂ　助詞。で。シに同じ。

フデイ　ヂ　カキ　筆、で、書け。

ヂ、ヂー　痔。ヂビョーともいふ。

ヂーヂュヤー、ヂーヂュワー（阿）、**ヂヂュリ**（歌言）　千鳥。歌に「鳴くなちば鳴きゆり、夜の濱のヂヂュリ、あれも吾如に、あてど鳴ちゆら」。

ヂサン　見舞に持參する金錢物品。

ヂソーバ　死體を假に埋葬する場所。

ヂダ　地面。但し土地の意はなく、天に對する地の意のみ。

ウフヂダ　大地。例「ウフヂダ叩いて泣いて哀しむ」。

ハラヂダ　何もない地面。例「子供等はハラヂダに坐つて遊ぶので着物を汚して叶はぬ」。

ヂチ、ヂキ（小野）　恰度——まるで。

ヂチ　ウヤ　ニ　ニチュイ　全く、親、に、似てる。

ヂヂュ・マチュイ　うづ卷いてゐる。——潮が、髮の毛が。

ピーファー　マ　ヂヂュマチ　ウイ　蛇が、とぐろを卷いて、ゐる。

ヂヂェー　自在鍵。

ヂドゥイ　八月遊びの相撲及び踊の練習。地取の義か。

ヂトゥルギ　地續き。

ヂバイー　流しの水溜。

ヂバン　襦絆。シャツにもいふ。

ヂバン　地下水の上部にある岩層、井戸を掘る時露はれる。

ヂヒ　是非――必ず。

ヂブネー　船酔が上陸後に起ること。ブネー參照。

ヂミ　燈心。

ヂミチ　馬の速歩の一種。四足を交互に小刻みに動かし、背の動揺が水平に近く乘心地が良いので、好んでこの練習をさせる。此の速歩をさせる事を「ヂミチ　クマシュイ（踏ませる）」といふ。

ヂャ　である。その敬語デー參照。

アン・ヂャ　さうだ――然り。

アン・ヂャラ、アンヂャロ、ヂャロ　多分さうだらう――違ひない。

アン・ヂャティム　さうであつても。

ヂャン・カナニ（早）　だからして――であるが故に。

ヂャー　何處――いづこ。

ヂャーンキン　何處も彼處も――至る處。小野津ではヂャーフォーレーと言ふ。

ヂャーラ　ドゥ　ウモーエール　何處から、お越しですか。

ヂャリ　接續詞。だの――やら。

マミ　ヂャリ　フミ　ヂャリ　豆、だの、米、だの。

ヂューイ　料理。――あらたまつた料理にいふ。シューキ參照。

ヂューグヤー　舊暦八月十五夜の月拜みの行事にいふ。現今では名稱だけで、何等行事を行はない所が多いが、古くは綱引などをして遊ぶ習慣があつた。

ヂューグリー　周圍。グルイに同じ。

ヂェー、ゲー（小野）　興趣――興味。

ヂェーナ　ムン　ヂャ　面白い事だ、實に愉快だ。

ヂェー　ネーラン　パナシ　面白くない話――味のない話。

ヂェーノー　餘興。

ヂョー　栓。

フビン・ヌ・ヂョー　壜の栓。

ヂョー　門前の道路。

ヂョー・アッチャー　下痢、スフィヤーを上品に言つたもの。・スの條參照。

ヂョー・イカヤー　家では陰氣でゐて、外では陽氣になる質の者。イカヤーは笑ふ者。

ヂョー・イカヤー　ヤーマドゥー(諺)　外では陽氣で、内では憂鬱。ヤーマドゥーの意不明。

ヂョーカ(老)　都會。

ヂョーキ　汽船。ブネイ參照。

ヂョーグチー、ヂョンクチー　門。

ヂョーシキ　三度の食事の拵へ。例「女はヂョーシキと機織が大事だ」。

ヂョーシキ・サー　チョーシキをする下女。又妻にもいふ。

ヂョーヂ　成就。完了——終結。轉じて皆無の意ともなる。

ヂョーヂ・ユーエー　仕事の仕舞祝。

テーフー　フチ　サコー　ヂョーヂ　大風(が)、吹いて、作物は、皆無(すつかり駄目)。

ヂョードウ　上手。

ヂョーノーキン(老)　税金。

ヂリ　義理。

ヂリファヂ　義理や恥。

ヂリ　パラタチュイ　恩義に報いんと努力する事。義理を働くの義。

ヂリナサー　不義理な人間——恥知らず。

ヂル　爐。浦原部落ではユルイともいふ。

ヂルヂル　じろ〳〵。——目を動かし、又はぎよろ〳〵凝視する形容。

ミーヂルー　目のぎよろ〳〵してゐる人。

ヂン、ヂヌ(老)　膳。ウシチに同じ。

タカヂン　高膳。

カイシキヂン　會席膳。

タテヂィン　夷膳——膳の筋目を縱に向けるにいふ。これを忌む俗習がある。

ヂン　銀。近時はギンと發音する者が多い。ナンヂャに同じ。

ヂングラ　琉球産の泡盛酒。

ヂンシトゥ　淋疾。

ヂンニ　ほんとうに——成程といふ意。

ヂンノー　玄翁、石を割るに用ひる。

ヂンプー　順風。

ヂンミ　協議、部落の集會の意にも用ひる。吟味の義。ユレー參照。

〔ディ di〕

ディー　禮、又はお辭儀。グリーと同じやうに用ひられるが慣用上差別のある場合がある。

ディー　イユイ　禮をいふ。又婚約の翌晩婿が嫁の家に行き禮を言ふ儀式にもいふ。

ディー　シュイ　お辭儀する。グリーシュイともいふ。
ディーフェー　シュイ　三拜九拜する。
ディー　で——嵩。例「三月植の唐芋はディー・ネーラン（實入が悪い）」。「外來米は炊くとディーはあるが、食べると不味い」。
ディーディー　トゥ　たつぷりと。
ディー、ディチャ(阿)、**ディキャ**(小野)、**ディカ**(阿)　いざと促す語。トーに同じ。
ディー　イカ　さあ、行かう。
ディーキ　利益。
ディキユイ　出來る。又作物などの出來がよい事にもいふ。マリュイ參照。
ディキ・ムン　優れた人物——秀才。
ディキラン・ボー　學校の成績の悪い子供にいふ。
ディクー　自慢。利口の義。
ディクー・ムン　高慢ちき。イサーラーに同じ。
ディクー　シンナ　威張るな。
ディクミャー、ディクニャー(阿)　ヤブニッケイ樹。風に強いので防風樹として屋敷に植ゑる。
ディッキ　和名テイゴ又はカイユヅ。落葉喬木で初夏の頃眞紅の美しい花が咲くが、化物花（ヒンムンバナー）といつてこれを取るのを忌む。

ディル、ヂュリ(小野)　どれ——どの物。
ディル　カラ　サチ　シロー　カ　どれ、から、先(に)、しよう、か。
ディン、ヂュン(小野)　どの。
ディンムン　どの物。
ディンカタ　どの方——どちらの側。
ディンチュ　どの人。
ディンチ　嫉妬。ワナイに同じ。

〔ドウ du〕

ドウ　掛助詞。ぞ——。
アリフドウ　クー　チ　イユン　ムンバ　イチ　ドウ　スル　あれ程、來い、と、言ふ、ものを、行きぞ、する。行くべきである——行かないといふ法があるかといふ語調。
マティチバ　ニャー　イチ　ドウ　・サラ　待てといふに、もう、行き、ぞ、せしか。行つてしまつたのか——仕様がないなあ、といふ語調。
イー　ドウ　イチャル　アシ　マデー　シラリン　ニャ　言ひ、ぞ、言うたる、さう、までは、されるか。——言うては見たものゝ、それ程酷い事は出來るものでない。

ドゥー　自己。又は身體そのもの、――但し身體にはカラダと言ふ。
ドゥー・ドゥー、ドゥー・ナー　めいめい――各自。例「ドゥー・ドゥーの事はドゥー・ドゥーでせよ」。
ドゥ・ワッサー　シラー　自分の惡さは、知らず。――自分の惡い事には氣がつかず。
ドゥ・ウッサ　身體が重い――動作が鈍重である。
ドゥ・ガッサ　身輕い、又人の言付けに從つてよく立働く樣にいふ。
ドゥ・ヤッサ　病氣がよくなつて身體の調子が良いといふ意に用ひる。身體安しの義。
ドゥー、ヅー(小野)　尾。
マン・ドゥー　馬の尾。
イユン・ドゥー　魚の尾鰭。
ドゥー　船の櫓。
ドゥー　どれ何處に――物のありかを人に尋ねるときにいふ語。いづれの語根いづの訛であらう。
ドゥカ　物の在處を探す時自問する語。何處だらうといふやうな意。
ドゥーシー　雜炊。
ドゥーブー、ヅブー(小野)　髭、四五歳の女兒の髪を簡單に折り曲げて結つたもの。昔は男の髭にも斯く云つたといふ。
ドゥイチャサイ　非常に氣恥かしい――じつとして居れない位にきまりが悪い。單に恥かしい事にはウカサイ又はパッカシャイといふ。

ドゥース　鈍感な人。人に何と言はれても一向感じないやうな人を罵つていふ語。
イチ・ドゥース　右のやうな人を更に卑しめて言ふ語。
ドゥカンゲー　獨斷――自分一個の狹い考へ。例「私のドゥカンゲーですが、話してみませう」。
ドゥク　毒。
ドゥクサイ　形容詞。達者である。
ドゥクサイン　ソーエーンニャ　お達者でございますか――挨拶言葉。
ドゥクナ　碌な。
ドゥクナ　ワーロー　ワ　アラン　碌な、奴、では、ない。
ドゥシ　友達。同志の義。鹿兒島ドシ。
ドゥシ・ウチ　同志打。
ドゥシ・クドゥミ　仲間同志が互にこぜり合ふ事。又馬などを一處に置く時互に爭ふにも云ふ。
ドゥシチャー、ヅッキャー(小野)　すゝき――薄。
ドゥヂ　土間。
ドゥヂョー　泥鰌。
ドゥティ　土手。
ドゥップイ、ヅップイ(小野)　づぶ〳〵又はびしよ〳〵に相當する副詞で、濡れるを形容する。
ドゥップイ　ヌリタ　ずぶ〳〵に濡れた。

ドゥブ(阿)　右の名詞化した語で、びしよ濡れ又はずぶ濡れに相當する。例「汗で着物がドゥブ(に)なつた」。

ドゥフィチ　自分の出てはならない事件、場所から、人に言はれるまでもなく自ら引込む事。例「かういふ場合はドゥフィチして貰はなければ、こちらから引込めとは言へない事だ」。

ドゥミャ、ヅミャー(小野)、**ドゥニャ**(阿)　斧。グヌ參照。

ドゥム・ドゥム　どし〳〵——づしん〳〵。足音の強く響く形容。

ドゥユー　土用。

ドゥユー・ナミ　土用の頃の海の荒れ。

ドゥリ、ドゥリ・ウナグ　淫賣——遊女。今ではインバイといふ。

ドゥル　泥。

ドゥルー、ヅルー(小野)　女性の名の下に附する一種の愛稱。慣例があつてイシ、ヨシ、ウシ等の名に附するのが普通である。鶴の字を書く。カナー參照。

ドゥル・ドゥル　どろ〳〵——泥などの形狀。

ドゥンガ、ドゥンガー　舊曆九月以後の壬戌の日に行ふパカ・マトゥイより三日目、卽ち子の日に行ふ折(ウン)目の一。此日鼠を見るを忌み、農夫は野に出ることを避ける。家毎に粥を炊く。近時廢れつゝある。

ドゥンガンドー、ルッガッドー　舊曆六月中に行ふ氏神の祭。此日老幼男女酒食を携へて社前に集り會食する。

ドゥンダー、ドゥンザー(小野)　襤褸着物、又はどんざ。後者は絲を縱横に通して丈夫に縫つた仕事着である。

ドゥンバイ、ドンバイ　一杯——入れ物に十分に充ちてゐること。ヌーミに同じ。

ハミ　ニ　ドンバイ　ミドゥ　イリトゥキ　甕、に、一杯、水(を)、入れとけ。

ドゥンブイ　丼。

〔デ〕

・デ　どれ——よこせといふ様な場合。

・デ　シリ　子供に物を與へる時、手を出せと敎へて云ふ。丁寧にいふ場合は、「オーオー　シリ」卽ちお頂戴しなさいとなる。

デー　竹。

デーンカー　竹の枝。小竹の義。

ヤマトゥ・デー　孟宗竹。大和竹の義。

ガラ・デ　唐竹。

デー　甘え、——普通子供にいふ語。

アフィタナーン　ムンヌ　デー　シルナ　そんな大きい、者が、甘えるな。

デー　です――でございます。ヂャの敬語。
アン・デー　さうです――その通りです。
アン・デーロ　さうでせう――それに相違ありますまいの意。
アセー・デンガ　それはさうですが――とは言ひますものゝ。
ヌー・デー　何ですか――言はれた事を再問する場合。又は、それは何ですか。
ヌー・チ・デー　何ですつて。
イチュス　デー　行くの、です。
デー　どれ――どれ見せてごらん等いふ時のどれ。
デー、デーメー　代。シルに同じ。デーメーは代米の義。
デーチャー　雲雀。
デーンナ、デンナ（小野）　殊勝な。又は困つた。
デーンナ　ワラビ　ヂャ　殊勝な、子供、だ。
デーンナ　サバクイ　ヂャ　困つた、事、だ。

〔ド〕

・ド　馬の歩みを止める語。ドードともいふ。

ド　疑問の助詞。
ウケー　アミドゥ　フトゥッド　沖は、雨が降つてゐるな――降つてゐるらしいな。
ストー　アミ　ヂャッド　外は、雨、らしいな。
ドー　助詞。よ――だよ。
イチュン　ドー　行く、よ。
アレー　ブネィ　ドー　あれは、舟、だよ。
ドーカ　どうぞ――どうか。
ドーカ・シェーラ　ミシティ　タボーリ　お願ひですから、見せて、ください。ドーカ・シェーラは、どうぞをしますからの義であるが、お願ひですから、又は是非どうぞといふ歎願の意に用ひられてゐる。
ドーカドーカー　名詞。歎願する様。「ドーカドーカーされたので、怵へてやつた」。
ドーチン、ドーキン（小野）　思慮。了簡の義。
ドーチン　ヌ　ネーン　ムン　ヤー　思慮の、足りない、者、だわい。
ドーチン・ナサー　思慮の足りない人。
ドーネィン　似たり寄つたり。例「十七八にもなるが、まだ子供とドーネィンぢや」。
ドームク　鳥獸の臓物。
ドーモー　老耄。

ドーラク　道樂――職業以外のものに樂しみふけること。又は好色。

ドーラクー、ドーラク・ムン　遊蕩兒。

〔ナ〕

ナ　疑問の助詞。か。强く問ひかける語で、何、如何等の疑辭及び不定稱が上に來る場合は用ひられず、又動詞の過去形中「タ」「ダ」「チャ」「ヂャ」形語尾にはカを用ひナは附かない。ナは動詞形容詞の連用形に附く時は、ニャとなる。カ及びヨ參照。

ウレー　イシ　ナ　それは、石、か。

ダー　イヂ　ナ　汝は、行つた、か。

ダム　イチュン　ニャ　汝、も、行く、か。

ナー　名。

ワラビ・ナー　幼名。古くは生れてすぐ幼名をつけたといふ。現在では始んどなくなつたが、四十歳以上の人は、今に幼名で呼ばれてゐる者が多い。

ニセー・ナー　二才名。幼名に對していふ本名の事で、古くは十五歳に元服し髷を更め二才名を附けたといふ。幼名に對して戸籍名にも斯く言つた。

ナー　トゥユイ　名を揚げる。名を取るの義。

ナー・サラシュイ　名を下げる。名を腐らすの義。

ナー　人代名詞に附して複數を表はす接尾語であるが、それに似たチャと混用される場合もある。ナーを用ひる場合は左の數語に限る。チャの條參照。

ワン・ナー　我等。但し此の語は語つてゐる對者を含めずにいふ場合で、對者をも含めて我々といふときはワーチャといふ。

アン・ナー　彼等。此の場合はチャを用ひない。アリンナーともいふ(小野)。

ダンナー(阿)　お前等。嘉鈍ではウランナー又はウラーチャと言ふ。

タンナー　誰等――誰々。チャを用ひない。

ドゥー・ナー　各自、銘々。チャを用ひない。ドゥードゥー又はドゥードゥ・ナーともいふ。

ナー　第三人稱アリの敬語。ナーミ參照。

ナー・ドゥー　彼自身の敬語。あなた自身の意にもなる。

ナー・ミトール　彼等三人の敬語。あなた方御三人の意にもなる。

ナー　接尾語。づゝ――宛。

インムン・ナー　同じ程宛。

ミートゥ・ナー　三つ宛。

ナガーサ・ナー　一樣に長く。ナガーサは長くといふ副詞であるが、ナーを附すると一樣に長くとなる。

ナーチャ　翌日――次の日。

ナーチャヌ・ナーチャ　翌々日。

ナーッチ　舊暦八月頃の氣候で、良く雨が降り、海が突然荒れる。此頃海底の砂や濱の砂に隴(うね)が出來るので、それを見て此の季節に入つた事を知る。ノーッチ參照。

ナードゥリ　舊暦六月中に、數日間無風狀態になる氣象に云ふ。

ナーヌスー　三人兄弟のうちの中の子。上の子と末の子とに比し常に不遇な立場に置かれるとされる。

ナーブィー(小野)　孰れともつかない曖昧な態度、又その人。例「あんなナーブィーでは、相談相手にはならん」。

ナーブック　部落の中程に當る場所を云ふ。中袋の義。

ナーミ　あなた。ダの敬語。ウンヂュに同じ。

ナーチャ　あなた方。

ナーチャニンヂュ　皆樣方。

ナーメー　あなたは。

ナーミ　ヌ　あなた、が。

ナー　あなたの。

ナーミッサ　五月雨時——梅雨季。古語ながめ。ナガシ參照。

ナーラ　桶や瓶などの半分目。なから。

ウィー　ヌ　ナーラ　ヌ　ミドゥ　桶、の、半分、の水。

ナーラスー　乾した茶の葉を鹽漬又は味噌漬にしたもの。

ナーリ　連續歌。三十音歌の意味の連續したもので、長いものは十數歌も續いてゐる。流れの義。

ナーローサー、ナローサー　桑の實。

ナーウ　心——軸。なかご。

バサー　ヌ　ナーウ　芭蕉の芽——中心から伸び出るもの。

ソース　ヌ　ナーウ　碾臼の軸。

ナーンカー　若茶——蕪の葉に言ふ。

ナイ、ナリ(上嘉)　少し。インチューナ參照。

ナイ　ム　ネーラン　少し、も、ない。

ナイナー　少しづゝ。早町ではナニャーといふ。

ナイ、ネー　地震。

ナイ　接尾語。の許へといふ意を表す語。カイ參照。

アンマーナイ　イキ　母の許へ、行け。

ワーナイ　クー　私の許へ、來い。

ナイ(老)、**ナギ**　縱——經。又は縱の長さ。

ナイ・ユク　縱横。

ナギ・シャク　ヌ　タラン　丈が足らない——長さが足りない。

ナイー、ナリー(上嘉)　果實。
バサン・ナイー　芭蕉の實。
ナカ、ナー　中。
ヤーン・ナー　家の中。
ナカ　カミュイ　相撲の三番勝負の場合負けた者が一度だけ勝つに云ふ。中を掴むの義。續けて二度勝つことを二番打(ニバンウチ)といふ。
ナカイー　泣きむし。
ヨーネー・ナカイー　夕方になつて泣く習慣の赤ん坊。
ナカクミャー　ナカクニャー(阿)　女の歩き方で、足先が内側に向つてゐるものに云ふ。ボーバネィー參照。
ナガサイ、ナーサイ　長い――物の長さにいふ。ナゲーサ參照。
ナガーサ　副詞。長く。
ナガシ　梅雨。
ナガシタ　梅雨季。ナーミッサに同じ。
ナカダチ　仲介。又は結婚の仲人。
ナカ・トゥユイ　仲裁する――仲を取る。
ナガビチュイ　長引く。
ナガミユイ　心を慰める――悲しみ苦しみの心を何かにまぎらはす。よく死別の場合にいふ。

ナガムン　雨。漁師が海上で用ひる言葉。
ナガリムン　一定の住所なく、處々を放浪して歩く者。流れ者の義。
ナギ　凪。トゥリに同じ。
ナギユイ、ナイユイ(嘉)　投げる。
ナギユイ　歌を歌ふ。
ナギラバ　ツキティ　タボーリ(歌の句)　歌ひますから、合はせて、下さい。三味線に對し、歌者の禮として最初に歌ふ句である。
ナギナギートゥ　ウタユイ　しんみりと懐しく、歌ふ。
ナグルサイ　名殘惜しい――別れがつらい。
ナゲーサ、ナゴー　副詞。永く、時の永さを形容する語。ナガサイ參照。
ナサキ　同情。
クチン・ナサキ　お世辭。口のなさけの義。
ナサキ　バッカイ　デンドー　人に物を贈る時謙遜していふ語。心ばかりでございますの義。
ナシチリー　生れ損ひ――嘲罵していふ語。本來は豚や山羊などの最後に生れた、弱小なものにいふ。
ナシュイ、ナスイ(阿)　産む――分娩する。
カ・ナシッチュ　産婦。子産人の義。
カ・ナシ・チャンヂー　難産。

ナシムンカ　澤山の子といふをぞんざいに云つた言葉。なしもの子の義。

ナスビ、ナスビャー　なすび――茄子。

ナダ　涙。

ナダ　ウティユイ　涙(が)、落ちる。――涙がこぼれる。

ナダクルー　マーユイ　涙ぐむ――目に涙を泛べる。マーユイは廻るの義で催すの意がある。

ナチャー(花)　蝉。鳴く者――鳴き手の義。アササーに同じ。

ナチュイ、ナキュリ(歌言)　泣く。鳴く。嘶く。

ナチムネイー　泣くやうにして物を云ふこと。泣き物云ひの義。

ナチクエー　聲を揃へて泣き悲しむこと、死人などのあつた場合。

ナカナカ　シュイ　今にも泣かうとする。

ナティー　或る地點へ行くのに、途中の一地點に立寄つて、又はそこを通つてといふ場合に用ひる。

ワンナー　ヤー・ナティー　ウモーランナ　私の、家へ寄つて、おいでになりませんか。立寄つてくれの意であるが誘つてくれの意もある。

ナッカシャイ、ナトゥカサイ　懐しいといふ意の外、歌などが悲しげなるにも、又妙なるにもいふ。

ナッカシー　ウタ　ヂャ　悲しげな歌だ。又は佳い歌だ。

ナッキユイ　かこつける。責任を他へなすり付ける。

ハマチヤミ　ニ　ナッキティ　アスディ　ウイ　頭痛、に、かこつけて、遊んで、ゐる。

チュ　ニ　ナッキティ　シランプーリ　シュイ　人、に(責任を)、なすりつけ、知らん振り、してゐる。

ナック　風采。例「良い着物を着ても少しもナックのない人だ。」

ナッシュイ　なすり付ける、――泥などを。

ナッシュイ、ナッスイ(阿)　の如し。活用はナッシュン――の如き、ナッシ――の如くの三つある。ナッシュンは上嘉鐵でナソーンといひ、ナッシは早町でネーニといふ。

ナメー　ヤマナッシュイ　波は、山の如し。

ヤマナッシュン　ナミ　山の如き、波。

ナメー　ヤマナッシ　ターサイ　波は、山の如く、高い。

ナッチャーナ(老)　ほんの少しばかり。インチューナに同じ。

ヨー・ナッチャーナ　極めて少しばかり。

ナトウ、ナツ(小野)　夏。

ワー・ナトウ　初夏。若夏の義。

ナトウサコー　パンサク(諺)　夏作は、半作。夏期は大風が多いので斯くいふ。

ナドウチ、ナヅキ(小野)　腦天――頭の頂上。又腦髓。古語なづき。

ナトウメー　夏瘦、夏負。

ナナシ　着物掛け。竹竿を紐で横に吊り、常着などを掛ける簡單なもの。

ナナチャ、ナラチャ　蓋のある飯碗、又それに似た吸物碗。

ナナトゥ　七つ。物を數へる接尾語を伴ふ時はナナとなる。
ナナヌ・キョーデー　七人兄弟姉妹。なゝのきやうだいの義。
ナニュイ、ナウイ(阿)　繋ぐ――牛馬などの家畜や船などを。つなぐのつの脱落せるもの。
ウシ・ナニャー　牛飼。
ナバ　茸類の總稱。
ナバラヨー(小野)　絲瓜。普通イトゥウイといふ。
ナファン、ナバン・ガサ　梅毒。
ナビ　鍋。
ナビ・シチー　鍋敷。
ナビ・フィングー　鍋墨、鍋の煤。
ナビ・カニャー(阿)　鍋を持つに用ひる藁で草履のやうに編んだもの。鍋摑みの義。
サンメー・ナビ　大なる鍋。
ボードゥー　右より一段小なる鍋。
ナビンカー　小鍋。
ナビンクー　鑄掛、又は鑄掛屋。後者にはナビンクー・シャーともいふ。
ナマシカー・アラン　並大抵なことではない――困難なことである。例「一人で二匹の馬を飼ふ事はナマシカー・アランぢやろ」。

ナミ　波。
ナミ・バラ　波間。波原の義。
ナミ・フッキ　波荒れ。波膨れの義。
ナミクン・デー　古く部落に死人があると、部落の人はその家へ酒三合を必ず持つて行く慣ひであつたと云ふ。その酒のこと。
ナユイ(小野)　男女通ずる。
ナユイ、ナウイ(阿)　なる。――事が成る、暑くなる等。
ナララン・ムン　普通の人の仲間に這入れない程の卑賤な者。人のさうした境遇にあることをナララン
いふ。例「ナララン親を持つて、私は小さい時から苦勞ばかりして來た」。
ナリフリ　身なり――なりふり。
ナリフリ　ヤ　イラン　ピトゥ　ヤ　ククル(歌の句)　なりふり、は、いらぬ、人、は、心が第一だ。
ナレー　習慣、慣例。
フン　シマ　ヌ　ナレー　此の、島(又は村)、の、習慣。
ナレーク　熟練者。
ナンカーユイ(花)　身體を何かに凭せかける。
ナンカビー　シチウンミの日より七日目の折目。この日はシバサシーの日に家の軒に挿した薄の葉を集めて、二つか三つに束ね、先を女の髪の形に結へ、その上に粥をかけ、門の側に灰を敷いて立てる。

この日朝食に必ず粥を食ふことになつてゐる。

ナンカン・ドゥーシー　舊暦正月七日又は十日に炊く七草粥。

ナンク　なんこ。酒宴の席上で行ふ一種の遊戯。二人各長さ三四寸の小さい箸切れの如きものを三本宛持ち、その中の任意の數を右手掌に隱して出し互に其の數を言ひ當てゝ勝負する。其他にも異つた方法があるが、これが普通行はれるものである。

ナンヂ　難儀――苦勞。

ワーサル　ウチゥー　ナンヂェー　ホーティ　シリ(俚)　若い、うちは、難儀は、買うて、せよ。

ナンヂャ　銀。ギンに同じ。

ナンチュ　來々年。

ナンナビスー　有耶無耶――中途半端。例「ナンナビスー仕事をして置けば、結局後で難儀する」。

ナンニュー　海綿。

ナンブサイ　辷りづこい。

ナンブナンブ　すべ〳〵。

ナンブチュイ、ナンブミチュイ　辷る。

〔二〕

ニ、イ(阿)　助詞。に。

タル　ニ　誰に。

パク　ニ　イリリ　箱、に、入れよ。

ニー　荷物。

ニー・ウーシンマ　荷を積んでゐる馬。

ハタン・ニ　馬に積んだ荷物の一方が重過ぎて傾いてゐるのに云ふ。片荷の義。

ニーギン、ニーヂン　人參。

ニーブクー　針千本、全身に針のある河豚。

ニガワン　身分に相應しない。例「私にはこんな立派な帽子はニガワン」。

ニギンミシ、ニギリミシ　握飯。

ニシ　北。北風。但し前者はニに、後者はシにアクセントがあつて區別される。

ニシン・カタ、ニッス・カタ　北、の、方。

ニッサンダー　北邊――北側のあたり。ニシのアンダ即ち北の緣の義。

ニッサドゥー　母家の北側の戸口。ニシのヤドゥの義。

ニシマルキ　波の名。舊暦八月以降、北風(ニシ)の吹く日に、長い間を置いて突然起る强烈な波。最も危險な波とされる。マーイナミに同じ。

ニセー　青年。鹿兒島語ニセ。

ニニー(早)　棘。イニーに同じ。

ニニボタン　薔薇――棘ぼたんの義。

ニャー　もう。もう良い、もういけない等の場合。

ニャービ、ニャーナイ　も少し――もつと。

ニャービ　ユラリティ　ウモーリ　もつと、御ゆつくりして、おいでなさい。

ニャーラ、ニャーカラ　今後――今から先。又はこれから。

ニヤサイ、ニッチャイ(小野)　苦い――にがい。イニャサイに同じ。

ニヤマ　今。

ニャマチバニャマ　ほんの今先。今と言へば今の意。

ニャンマ　今に――やがて。例「燕が飛び廻るが、ニャンマ雨が降るだらう」。

ニューニュー(兒)　鶏。トゥートゥーに同じ。

ニューニュー　ホーリ　子供が躓き倒れて泣さうになつた時、斯く言つて空を指して慰める。鶏は遙にの意。

ニューニュー　呻吟。例「腹が痛いと云つてニューニューしてゐる」。

ニューウイ、ニューウイ(阿)　呻吟する。ニューニュー・シュイとも云ふ。

ニンニュイ　握る。

ニンニ・ビッシュイ　握り潰す。

ニンニョー　人形の訛であるが、繪畫のことを云ふ。

〔ネイ ni〕

ネィー　根――植物などの。又事の根本。スラの條參照。

ネィー　イヂャシュイ　噂の出所を突止める。イヂャシュイは出す。

ネィー　イヂュイ　話がはずむ。又三味線や歌の音が冴える。イヂュイは出る。

ネィー・ネィー　トゥ　副詞。冴え冴えと――三味線や歌の音の形容。

ネィー　値段。ネイダンとも云ふ。

ネィー　シュイ　値が上る。シュイはする。その反對を「ネィー　シラン」といふ。

ネィー、ネィッキー　側――際。鹿兒島でネキ。

パヤ　ヌ　ネィー　柱、の、すぐ側。

ネィーブイ　居眠り。

ネィーヤ、ネィンヂャ　龍宮。海の底にある、神の住む淨土と考へられてゐる。

ネィーヤン・カミ　海の底のネィーヤを司る神。舊暦四月、麥の取入れの後に祝女が行つたといふウリヅムの儀式は、此の神を迎へる意で、最も崇嚴を極めたといふ。

ネィガユイ　願ふ。

ネィギ　葱。

ネィタサイ　憎い。

ネィタミュイ　憎む――ねたむ。

ネィッカユイ　憎がる。

ネィディユイ　食物に不自由する。飢餓する程ではなく、充分に食へないといふ程度。腹痛で食物をネィディティ（減食して）ゐる等用ひる事もある。

ネィドウ　不眠――ねず。

ネィドウミ、ネィドウマー（嘉）、**ミドウミ**（阿）　鼠。カーキー及びユミヂョーに同じ。

ネィドウミ・タカー　鳶。鼠鷹の義。

ネィバイ、ネィバリ（上嘉）　食意地の悪いこと。例「ネィバイして財産を失くする」。

ネィバイー　食ひしんぼう。

ネィブ　柄杓。

ネィブイユイ　熟睡から覺める。又一眠りして覺める。

ネィブイ・ダマ　熟睡から覺めて、まだぼんやりしてゐる狀態。

ネィマユイ、ネィマリユイ　食物が腐りかける。シーユイ參照。

ネィリ　下駄や草履の緒。

ネィリ　小兒の遊戯の一種。木の枝を長さ一尺程に切り、先を尖らして軟い土の上に突立て、相手の立て

たものに當てゝそれを倒す。

ネィングル　妾。ねんごろの義。

ネィングル・ウトゥー　情夫。

ネィントー、ネィントゥー　年頭廻り。

ネィンブイ（嘉）、**ネィンビュイ**（小野）、**ネィンヂュイ**（阿）　寢る。

ネィッタイ・ウィータイ　寢たり起きたり。

ネィビッチュイ　熟睡に陷る。

ネィンバンミー　ねずの苦しみ、又は心配。例「昨夜は齒痛でネィンバンミーした」。

〔ヌ〕

ヌ　助詞。が。ガと混用されてゐるが、ヌは我彼の如き代名詞には附かない。

イシ　ヌ　アイ　石、が、ある。

ヌ　助詞。の。ンとなる場合が多い。

ヤー　ヌ　ナカ　家の中。ヤーンナーとなる事が多い。

ヌー、ルー（小野）　助詞つゝ。チューに同じ。

ユミャーヌー　カキ　讀み、つゝ、書け。

ヌー　何。

ヌーヨ　何、だ。――それは何であるか、又は何事であるか。

ヌードウ　アラ　なぜかしら――何の故か知らぬが。

ヌーン　キン　何もかも――皆。

ヌカ　何故だらうか。

ヌーカ　何だらうか。「ヌー　ヨ」に比し、質問の程度が輕い。

ヌガ　何故に――なぜ。

ヌーチム　イヤラン　何、とも、云へない。――讃美する場合に用ひる語。

ヌーカラ　ヒー　アネィ(阿)　何から、何、まで。

ヌーミ、ヌーミー　一杯。ドゥンバイに同じ。

ヤーンヌーミ　ヌ・チュ　家一杯の人（人集り）。

ヌイ　衣服の糊。スキー參照。

ヌイ　シュイ　糊(を)、つける。シュイはする。「ヌイ　カマシュイ」ともいふ。カマシュイは食はせる。

ヌイダシ　巫女になる事。例「何某はいよ〳〵ヌイダシしたさうだ」。

ヌカ　糠。

ヌキ　上等――飛切り。ヂョートーとも云ふ。

フン　ガラー　チン　ニ　シリバー　ヌキ　ヂャ　此の、柄は、着物、に、すれば、持つて來い、だ。

ヌギユイ、ヌイユイ　拔ける。

ヌク　鋸。

ヌクサイ　暖い――溫い。

ヌクミュイ(小野)、**ヌッチュイ**(阿)　火にあたる。火に身體をぬくめるの自動詞形。

ヌクミュイ　ぬくめる。

ヌクユイ、ヌクウイ(阿)　殘る。

ヌクシュイ　殘す。

ヌクイー　殘り物。ノーイーともいふ。

ヌクリー　殘念な――惜しき。

ヌクリー　クトゥ・シャ　殘念な、事(を)、した。――惜しいことをした。

ヌザ、ヌダー　下人。昔砂糖上納の出來なかつた者が砂糖を借り、支拂ひが終る迄その利息で無期奉公をした。それをヌザと言ひ、ヌザに子供のある時は、親と交替する事が出來た。又ヌザの子孫が代々主家の下人になる事もあつた。その場合ヌザの子をヒザと言ひ、ヒザの子をグンヂュー、グンヂューの子をピャークー、其の子をヂューイチーと云つたといふ。尙女のヌザが、主家で子を生む事をナシンチーと云つた。產し置き卽ち生みつけの意である。現今ではヌザは單に下人の意味に用ひる事があるが、あまり用ひられない語となつてゐる。是等の者を總稱してヤンチュと云ふ。

ヌサリユイ　思はぬ幸せを得る。

ヌサリタ　思はぬ僥倖のあつた場合に言ふ語で、占めた――と言ふに似てゐる。

ヌサン　困る――どうもならん。例「かう雨ばかり降られてはヌサン」。鹿兒島でノサン。

ヌシ　主人、持主。

ヌシ　イヂャシュイ　拾ひ物をして、その持主を見出す事にいふ。

ヌシ、ヌッシュ　對者又は第三者を罵つていふ語。貴樣如き者、又は彼奴。

ヌシ　ガ、ヌシチャー　ガ　貴樣如き奴が。又は彼奴が。

ヌシトウ、ヌストウ、ネィットウ(小野)　盜み――盜む行爲。又は盜人。盜人とする時は特に語尾の母音を伸ばしてヌシトゥーとするのが普通である。

ヌスカーユイ　のさばる――身體を前方へ被せるやうにして突出す。

ヌスカーイ　ム　ナラン　寄り付き、も、ならない。――相手が手強いので、寄り付けない。

ヌダイ(阿)、**ヌニャギ**(小野)　食物が喉に支へること。例「餅を急いで食つてヌダイした」。

ヌチ　横の意で、横絲、閂、家屋の横木にも云ふ。又味噌醬油等を造る場合、糀をタティ（縱）といふに對し、其他の材料たる豆の類をヌチといふ。

ヌヂャーユイ、ヌヂャーウイ(阿)　身體を前方へ進める。一寸顏出しをする。

ヌヂャーティ　ユー　ミチ　ミリ　身を近付けて、良く、見て、見よ。

ヌヂャーインソーリ　そとは端近ですから、もつと膝をお進めなさいといふ場合にいふ語。

ヌヂャーティ　ウモーランナ　一寸立寄つて(自分の家へ)、いらつしやいませんか。

ミー・ヌヂャーイ　立覗き。目を伸出して覗くといつた感じ。例「誰か門の處でミーヌヂャーイしてゐる」。

ヌチュイ　指す、又は指先や細い木竹などで一寸突くやうに觸る。例「墓をヌキバ（指せば）指が腐る」。

ミー　ヌカリー　茅などで眼を突かれる。又荒墓を覗いて眼病を患つたといふ場合にも、眼を突かれたといふ。

ヌテュイ　貫き差す。多く紐の類で貫き差すにいふ。

ヌドウ　喉。ヌビーに同じ。

ヌドウ・フォーソー　ヂフテリヤ。喉疱瘡の義。

ヌドウルー　目が霞んで視界がぼんやりする事。又硝子などの曇つてゐるのにもいふ。

ヌドゥルー　ナティ　アヤ　ミッキラン　目が霞んで、織物の模樣(が)、見出されない。

ヌビー、ヌディー(花)　喉。ヌドゥともいふ。

ヌビー　クンビュイ　喉を括る――首を吊る事。

ヌヌ　布。普通大島紬の事をいふ。マンヌヌ參照。

ヌヌ・ウヤー　機を織る者。ウリクともいふ。

ヌブイ(嘉)、**ヌビュイ**(早、小野)、**ヌヂュイ**(阿)　伸ぶ。又太陰曆による一ヶ月の日數が三十日となるにもいふ。トゥチの條參照。

ヌブシュイ　上氣する。又逆上する。

ヌブシ　のぼせ。

ヌブシッキユイ　驚愕して逆上する。

ヌミ　鑿。

ヌミ　蚤。

ヌムイ(嘉)、**ヌニュイ**(阿)、**ヌミュイ**(早)　飲む。

ヌントゥシュイ　飲み下す。

マンヌミー　丸飲み。インヌミとも云ふ。後者は犬飲みの義であらう。

ヌユイ、ヌウイ(阿)　抜く。

ヌギユイ　抜ける。

ヌル、ヌル・サリー　昔の祝女。サリーはシラリの約で、知る人即ち治める人の義といふ。

ヌルサイ　甘い——砂糖や蜜の味、又脂肪の濃厚なる味にいふ。アマサイ參照。

ヌワユイ　手で物を差出す——渡す。

ウン　ブシ　ヌワティ　クリ　その、帽子(を)、手渡して(よこして)、くれ。——かしてくれ。

ヌンダシュイ、ヌンガシュイ　辷り落す。

ヌンディユイ　辷り落ちる。スンディユイともいふ。

〔ネ〕

ネー　植物の苗。普通には稻の苗にいふ。

ネー　子の時。午前九時頃より正午頃迄の間。

ネーシュイ、ネーラシュイ　手や足などを萎す。

ウチ・ネーシュイ　撲り倒すと言つた様な感じの語。

ネーユイ　萎える——手や足などが。

ネースー　茶の間即ちシャヌマの事を斯くいふ事がある。

ネービー　稗——植物としての。ピーともいふ。

ネーン、ネーラン　無い。ネーン又はネーラーともいふ。その敬語はアエーラン。

ナイ　ム　ネーン　少し、も、ない。

ヌー　ム　ネーン　何、も、ない。

〔ノ〕

ノーシュイ　物を元に納める。又は物を片付ける。「シデー　シュイ」ともいふ。

ノーッチ　八月の海荒れ――通常雨を伴ふ。これはナーッチの終つた後に起る海荒れで、ナッーチの折に出來た砂の隴を平坦にする荒れと謂はれる。

ノーメー　玄米。

ノーユイ、ノーウイ(阿)　縫ふ、又絢ふ。

ノーユイ、ノーウイ(阿)　拭ふ――拭く。

ノーユイ、ノーウイ(阿)　治る――病氣等が。

〔ハ〕

ハー　井戸。イガワと言ふ事もある。

ハーン・パター　井戸端。

ハーラ　川。此島には川といふ程の川はないが、溝の稍大なるものにハーラといふ。

ハガユイ(早)、**ハーウイ**(阿)　引張る。

ハギ(女)　感動詞。驚いた時や怖れた時に發する語。

ハギヨー(女)、ハギノー(女)　非常に驚き又は怖れた場合に發する語で、まあどうしようといつたやうな強い感情を含んでゐる。

ハゲ　感動詞。一種の溜息に似てゐる語でやれ〳〵に相當する。

ハゲ　アンマサ　やれ〳〵、疲れた。

ハサ　傘。笠。

ハサン・カー(老)　帽子。一般にはブシといふ。

ハサー　木の葉の大なるものにいふ。ハサンバーともいふ。

ハサニュイ　嵩む。

ハサビユイ、ハサネィユイ　重ねる。

ハサビ・ギン(小野)　重ね着、着物を二つ重ねて着る事。

ハシ、ハッシ、ハセン(上嘉)　斯く――とのやうに。アシ參照。

ハッサ、ハッサン、ハソーン(上嘉)　斯くの如き――とんな。アッサと混同して用ひることもある。

ハシ　紹(かせ)――枠にかけて外した束絲。縱糸にいふ事が多い。

ハタ　肩。

ハタ・ファドゥイー(マ)　はだぬぎ。ファドゥイー(マ)ははづしの意。

ハタ　接頭語。片。

ハタ・シー　穿き物の兩方違つてゐる事。

ハタ・スバー　着物の裾の不揃ひな着方。

ハタッピャー(早)、ハタッサー(阿)　片足。

ハタ・ティー　片手。

ハタ・フォールー　片一方。

ハター　蔭、――光や風や人目のあたらない所。

ハター　ナユイ　蔭(に)、なる。

ハター　シュイ　物を覆ひ隠して、光や風や人目等を遮る。

ハタサイ　硬い。又は濃い。

ハタサン・カイ　硬い粥。

ハターサ　タネィ　マチュイ　密に、種(を)、蒔く。

ハタッサー・イユー(阿)　平目。片方魚の義。

ハタッチュイ　傾く。

ティダ　ハタッチュイ　陽(が)、傾く。

ハタッキュイ　傾ける。

ハタナ　庖丁、又は刀。ポーチョー参照。

ハタバシー　側――傍。スバ及びパタに同じ。

ハタバシッーキュイ　整頓する――片付けるの義。

ハタバシー　イユイ　皮肉を云ふ――側を云ふの義。

ハタ・ミートゥ　數へ年三歳。年の數へ方は、生れて初の正月をするまでは年を數へず、正月をして始めてティトゥ即ち一歳と言ひ、次の正月を迎へると直ちにハタミートゥと言ひ、二歳は飛ばせて數へな

い。イヌイ参照。

ハタミユイ　擔ぐ。

ハタミヤー　葬式の時棺を擔ぐ人、これには死者のパラチュー・ウィーッカが當ることになつてゐる。ウトゥムシャー（お伴する人）とも云ふ。

ハチ　垣。普通薄で造る。ショーンニャチ参照。

ハヂ　頸筋。ハヂスヂともいふ。

ハヂ　やまあさ（ユナ）の木皮から取る繊維。繩を作る。

ハヂチカン　仕末に終へない。桿がきかぬの意か。例「いくら言ひつけてもづぼらをしてハヂチカン」。

ハダ(阿)、**ハヂャ**(伊)　臭ひ。

コー・ヤチ・ハダー　きな臭いにほひ。布片を焼くにほひの義。

ハダ　ハミュイ　臭ひ(を)、嗅ぐ。

ハチャーシュイ　かきまぜる――まぜ合はす。例へば味噌の中に砂糖を入れてハチャーシュイなど。

ハディ、ハヂ(小野)、**カヂ**(歌言)　風。

ハディ・フチ　大風。テーフーともいふ。風吹きの義。その動詞は「ハディ　フチュイ」。

ハディ・マトー　何の障害物もなく風の吹き當る場所。マトー参照。

ハディ・ワラ　風表――風上。ワラ参照。

ハディッサラ　風裏――風下。・サラ参照。

ハディイチ　シラン　風息がしない——無風状態をいふ。

風位名稱。

フチ、フチ・カディ、クチ、クチ・カディ　東風。

クチ・ミナミ(小野)　東南東風。

ミナミ　南東風。

ミナン・ベー　南南東風。

フェー、フェン・カディ　南風。冬季この風が吹くと雨になるといふ。

ウチ・フェー　南西風。この風は吹き初めると永續きする。地を甫ふ樣な低い烈風で、家の中をあさる風と云ひ、火の用心をする。

ウチニシ、ウキニシ(小野)　西風又は西南風。

ターラー・ニシ、ターナー・ニシ(小野)　西北西風。强惡な風とされる。

ナーニシ・ターナー(小野)　西寄りの北西風。

ナーニシ(小野)　北西微北風。

ナーニシ・マニシ(小野)　北寄りの北北西風。

ニシ、マ・ニシ、ニシ・カディ　北風。

クチ・マニシ、フチ・マンシ(阿)　北東風。此の方角は大風の家と言はれ、大風は此の風から吹き始める。

クチ・ニシ　東北東風。

ハディマーサラー　風車——子供の玩具。

ハティムン　糅物——御飯のおかずにいふ。

ハティユイ　かて〻食ふ。

ハッキヤー　隱れんぼ。小野津ではツッキヤーといふ。

ハッキユイ　隱れる。小野津ではツッキユイと言ふ。

ハッキ・トゥヂー　情婦。隱れ妻の義。

ハッケー　ネーン　一目瞭然だ、あらはだ。隱れはないの義。

ハッキユイ(小野)　背負ふ。子供や荷物などを。ハンニユイに同じ。

ハッサ、ハッサイー(阿)　髪の毛。イは鼻音化する。

ハッチユイ　蒸す——餅や羹などを。

ハットゥー(老)　帽子。かぶとの義か。

ハドーサイ　風の吹きまくる形容語。

ハドーカ　ヒューイ　デール　吹きまくる、天氣、ですね。

ハナ　鉋。

ハナシャイ、ハナサイ(阿)　愛しい。古語かなし。カナー參照。

ハナーサ　睦じく。

ハナシャ　ドゥ　シュラサ(諺)　愛しき、ぞ、美しき。――愛すれば醜婦も美人であるの意。

ハナダレ(小野)　醸造の時最初に出る酒をいふ。アワムイと同じ。歌に「酒ぬハナダれや人狂(ア)らすてもの、吾ぬや人狂らす目眉持たぬ」。

ハニュイ(阿老)　嚙む。

ハディ　カミ(阿老)　嚙んで(良く咀嚼して)、喰へ。

ハンヂャーシュイ　嚙む――盛んに嚙むといふ言ひ方。

ハネィ　錢。又金屬の總稱。

ハネィ　カミュイ　遊學する。金を食ふの義。

ハネィヌッス　鐵屎(かなくそ)。

ハネィー　年中行事の一。六月初めの庚の日に行ふ折目で、家毎に餅を造る。古くは此の日ハラタミーと稱し、部落で牛を屠り、其の肉を各家に配つた。家々ではその肉を汁の中に煮て、家内中でその汁を食したといふ。

ハネィク　部落近接の砂原又は芝生の廣場で、固有名詞として到る處にある。

ハネー　或る仕事に專念すること。

ハネー　シュイ、ハネー　トーシュイ　或る仕事に專念する。例「今朝はハネートーチ花を植ゑた」、「土が堅まつて一日ハネー・トーチム耕しきれなかつた」。

ハネーナサー　仕事のないもの――子供や遊び人。

ハネーユイ　着物をまくる。

マイ　ハネーユイ　尻をまくる。

ハバサイ　馨しい。

ハバサン・サー　香の高い茶。番茶に對していふ。

ハビ　紙。

フン・カビー(花)、カッチャンビー(阿)　反古。前者はほうぐ紙、後者は書き破りの義。

ハブ　人の進めるを辭退する語。――結構です、もう澤山です等の場合に用ひる。

ハフー、カフー　果報。例「初子が男ならハフーだ」。

ハブイ　すねること。

ハブイ　シュイ　すねる。

ハブイー　すね者。多く女や子供にいふ。

ハブッサヂ　昔の祝女が頭を覆ふに用ひたといふ白布。被りサヂの義。現在では死人の面部を被ふ白布にいふ。ハンサジ參照。

ハマ　鎌。

カタ・ファ　片刃の鎌。草を刈るに用ひる。

ムル・ファ　諸刃の鎌。

ハマ　竈。

ハマ・キュイ　竈に鍋を据ゑる——炊く準備をする。

ハマチ　頭、輔の轉。女の髪にもいふ。

ハマチ・ガブー　大頭——人並以上に大なる頭にいふ。

ハマチ　ユーユイ　髪(を)、結ふ。

ハマチ・ヨーシ　頭から——水を被る、頭ごなし——言ひ被せる等の場合の頭から、頭ごなし。

ハマッター　大きな鍋の蓋、藁で陣笠の形に編んだもの。板で作つたものにはナビンブターといふ。ハマッターのタは蓋の義。

ハマッター・サバー　鮫の一種。鍋蓋に似てゐる處から言ふ。

ハミ　鬣。

メーハミ　前鬣。面部へ垂れた部分。

ハミ　甕。

ミドウ・ハミ　水甕。

トゥラ・ハミ　口が大きく大なる甕。

ハミ　鮑。鮑の肉は滋養食物であるが、不淨食物とされる。

ハミ　上。普通水上の方をいふ。

ハミヂョー　げんごらう蟲。

ハミユイ　頭に物を戴せる——頭上運搬。又物を頂戴する——兩手に押戴いて額の邊まで差上げる事。

ハミュイ、ハニュイ(阿)　臭ひを嗅ぐ。

ハミョーイ　昔の乃呂の儀式の一つで、神掛りの意かと思はれる。ハンミャーイとも言ひ、「ハミョーイ掛る」と言ふ言葉がある。乃呂の儀式の事にはハンブティーと言ふのが普通である。

ハイ(阿)、**カリ**(上嘉)　銛の先にある逆鉤。又はその様な形狀のもの。阿傳語のイは鼻音。

ハイ(阿)　影法師。又は蔭。イは鼻音。ハンボー及びカギ參照。

ハユイ、ハウイ(阿)　借りる。イラユイ參照。

ハラシュイ　貸す。

ハラ　接頭辭。空の意を表す語であるが、別にカラとムナとがあり、夫々慣用によつて差別して用ひられてゐる。

ハラ・シャー　粗茶、——茶請のない場合。

ハラ・カニ　お茶を食はずに飯や薯だけを食ふこと。

ハラ・アビ　から叫き。からうそぶき。——つまらぬ事を大聲でしやべる事。

ハラッピヤ、ハラッサ・ラ(阿)　素足。パダシに同じ。

ハラ　薯の蔓。

ハラサイ　辛い——鹽や酒にいふ。

ハラシュ　空潮の義か。月の七日八日及び二十二・三日(舊曆)の潮をいふ。この潮は滿干の度が極めて低い。

ハラシュー　しほから。魚の臓物を鹽漬にしたもの。

ハラシュー・ハミンカー　喉小舌――のどぴこ。鹽辛を入れる小甕の義。

ハラマチュイ　絡まる――卷付く。

ハリジマ　枯れ島の義で、木の枯れた如く衣食に事欠く程の貧困な島又は部落。

ハワユイ、ハワウイ(阿)**、カワユイ**　交替する。

ハワイ・ハワイ　交る交る。

ハン　接頭語。か程のかに當る。アン、ウン及びインの條參照。

ハ・ナガ　これ程の長さ――物の長さ。

ハ・ナダー　これ程の永い時間。

ハ・フィダ、ハ・ビタ　これ程の大きさ。アフィダと混用してゐる。

ハンサ　これ丈。ウンサと混用してゐる。

ハンサン　こんなに澤山の。

ハンカ、パンカ　呪術の一種で、鍛冶屋が行ふものといふ。それを行ふことをハンカを打つといふ。打たれた者はレプラになるといふ。

ハンサ　亡者の國。サンカに對する語で、アヌユ又はグシュといふに比べて、嫌悪の情を以て呼ばれる。

ハンサ・ミチ　墓場へ通ふ道を斯くいふ事がある。

ハンサヂ(老)　頭に被るものとしての手拭。普通手拭にはサヂといふ。

ハンダー　葛。

ハンヂュイ、ハンビュイ(小野)　被る。帽子をかぶる、夜着をかぶる等。

ハンバシュイ、ハッシュイ　被せる、蔽ふ。

ハンヂョーワー(阿)**、ハンヂュヤー**　川蟬。

ハントーミ(兒)　人の手などを踏んだ時、斯う云つてその人の手を自分の頭上に置く。これをしなければ踏んだ人は丈が伸びないといふ。

ハンナギユイ、パンナギユイ、ハンネーユイ(阿)　捨てる。

ハンナギ・ムン　世間の人に相手にされない者。捨て者の義。

ハンニユイ　背負ふ、子供や荷物などを。

ハンニー(阿・兒)　おんぶ。

ハンバ　謎々の解けない時にいふ語で、負けを意味する。

ハンブティー　昔の祝女の儀式。通常四月と九月の二回に、トゥネイで行はれ、費用は大雌馬一匹の代に相當し、見物の人で村を踏み亂された程であつたと傳へられる。尙祝女の事をハンブティー・ガナシといふ事がある。

ハンボー(花)　影法師。カギ及びハイ參照。

ハンミユイ　物をしまふ、又は匿す。しまふ事には「カングシュイ」ともいふ。カング參照。

ハンヤ　神の國であるが、一般の信仰は漠然として薄い。その國の神をハンヤン神といふ。琉球のニライ

・カナイのカナイの轉形であらうが、ニライに相當するネィーヤと對照的には考へられてゐないやうである。

ハンヤドゥ　表の間の、床側の戸口で庭に面し、上座とされてゐる。最上の客を迎へる處である。但し又此處から嫁を迎へ入れ、棺を送り出す。

〔ヒ〕

ヒー　木。
ヒッサー　木蔭。木の下の義。

ヒー　何――、自己と同等以下の者に反問する語。ホー參照。

ヒー(阿)　毛。

ヒーユイ　跨ぐ。越えるの義。

ヒッサ　疾うに。例「彼はもうヒッサ出發した」。

ヒッチェーユイ　躓く。

ヒドゥイ　馬が身體を物にこすつて搔く事。毛擦の意であらう。

ヒブサイ　けむたい。

ヒブシ　煙。

ヒブシ　マチュイ　煙(が)、渦卷く。――煙の盛んに出る形容。

ヒブシミー　眞烏賊。

ヒユイ　蹴る。

ヒユイ(阿)、**ヒニュイ**　液體をかき混ぜる。例へば粥を炊く時しやもじでかき廻す等。

ヒンニャ　みんな――全部。アイトゥムに同じ。又幼兒に對して用ひる場合は、ない〳〵の意となる。

ヒンニャンカー　私生兒。皆の子の義であらう。

ヒンニュイ　削る。

ヒンボーチャー　樹液。

ヒンムン　妖怪。マヂャムンと同じやうに用ひられる。

〔フ hu〕

フー　穀、――穀物などの。

フー　甲羅。
ハミン・フー　龜の甲。その模樣にはカミン・クーといふ。

フイ　馬に進めと命ずる語。

フガー、**フワー**(阿)　卵、タマグに同じ。

フシ　後方、又は背中。
ヤーンフシー　家の後ろ。
フシ　ウチュイ　背中を叩く——按摩の場合。
フシ・マガヨー　猫背。
フシウーサン　やり切れない——つらい。
ブリガー　スダティエー　フシウーサン　群れ子即ち澤山の子(を)、育てることは、つらい。
フシ、ナーブネィ　背骨。
フシュ、フス(阿)　胡椒。
フシュイ、フスイ(老)　順番を飛ばせる。又植物を移植する。越すの訛か。
フシュイ(老)　着物を着せる。チシュイと云ふ語が一般に用ひられる。
フスッキー　酒を醸造する甑。
フチ　犬を嗾しかけて吠えさせる語。
フトゥ　別。例「お前の言つてゐる事と自分の考へとはフトゥぢや」。ワーイ參照。
ワノー　フトゥナ　自分は、別か。——差別待遇するのはひどいではないかといふ意。
フドゥ　去年。こぞの訛。
フトゥバ、クトゥバ　言葉。ユミタに同じ。
フネーダ　先日。フンナエーに同じ。

フネーダー　ウフクンデータ　先日は、有難うございました。
フバ　蒲葵——あじまさ。
フバユイ、フバウイ(阿)　固くなる。轉じて人の仲が悪くなるにも云ふ。
フバイッカユイ　凝り固まる。
フバフバートゥ　固々と、——強く固着してゐる形容。
フファン　大なる木製の容器。——昔祝女が供物の飯などを盛つたといふ物。
フバン　婚禮の時、聟の家から嫁の家へ贈る料理。極めて丹念な料理で、嫁の家ではこれを近親に配る。
フビ　家の壁。ヤーン・フビーとも言ふ。
フビン　壜。
タマフビン(老)　硝子壜。普通ビドゥル・ビンといふ。
フブシュイ　零す。
フブリュイ　零れる。
フマ　此處。フマーといふ處もある。アマと複合して、アマクマとすれば、あちらこちらとなる。
フミ　米。
フミ・フチャギ　米と諸とを混じて炊いた粥。
フミラー　水鶏。クヒナの訛。
フム　藁の小繩で密に編んだ厚い丈夫なむしろ。——豆麥等を打つ時に敷く。こもの訛。

フムイ　海岸の窪みの水溜り。

フヤシュイ(小野)　一緒に連れて送る。他の部落ではウクユイといふ。

デョーグチー　マディ　フヤチ　クー　門口、まで、送つて、來い。

フリ　是れ、此の物。

フン、フヌ(老)、**クヌ**(歌言)　此の。フンネィーに同じ。

フンサ　是れだけ。

フンナエー　先日。フネーダに同じ。トウベーサ參照。

フンネィ　おくみ——袵。

フンネィー(阿)　此の。フンに同じ。

フンバーイ(阿)　歩き過ぎて脚部の筋肉が硬くなり、胃腸の具合を悪くする事にいふ。こむら上りの義。

〔ヘ〕

ヘー　馬の背返り。

ヘーシ　大風の終りに、今までと反對の方向から吹いて來る强烈な風。返しの義。

ヘーシマー　着物を裏返しに着る事をヘーシマー着ると言ふ。越後南蒲原でカヘシマ。

ヘーシマ・イン　右の如く着てゐる着物。

ヘーユイ　變更する。交換する。

シー　ケーシュイ　仕替へる。やり直す。

ティ　ガイ　手換へ。——物と物、或は物と金とを其場で交換すること。

ヘーユイ　ひつくり返る。くつがへる。仰向けに寢る。

ヘーヤー・マーヤー　ふせつまろびつする事。例へば子供が芝生などで轉んだり廻つたりする事、又醉ひどれの歩く樣等。

ヘーシュイ　ひつくり返す、うらがへす、船を轉覆させる。

〔ホ〕

ホ、ホー　動物を追ひ立てる聲。多く鷄の場合に云ふ。

ホー　へー、何んですかと反問する敬語で、語尾を上げて發音する。又長上に呼ばれた時にはいと應ずる語。ヒーの敬語。オーの條參照。

ホーイ　もし〳〵と呼び掛ける語。又他人の家で案内を乞ふ時にも用ひる——セーラ參照。古い人は夜道で人に出會つた時、ホーイと聲をかける慣ひがある。

ホースマトウイ　パカマトウイに同じ。

ホーヂ　麵。微卽ちホーブイの事にもいふ事がある。

ホーヂ　クーユイ　麴がつく。又は黴がつく。

ホービ、ボービ　頭。――敬つていふ語。

ホーユイ、ホーウイ(阿)　買ふ。

ホーイ・ムン　買物。

ホーリ　遠い處、遙かなる方。手久津久部落ではコールといふ。

ホーリ・ヌ・シマ　遠くの島、又は遠くの部落。

〔パ pa, fa〕

パー　齒。

メーバ　前齒。

インパ　犬齒。

ウクバ　奥齒。

ウヤシラドゥ　親知らず。

パーケー　齒の缺けてゐる者。齒の缺けた爺さんの事を、パーケー・アヂンカーなどゝいふ。

パチー・ファー　出齒。パチーといふ魚の齒に似てゐるので斯くいふ。

パーンミー　齒の間に挾まつた物。

パーヌッス　齒莢。

パヂシ　齒莖。齒肉の義。

パー　カミュイ　齒を嚙む、――夜寢てゐて或は殘念がつて齒がみする等。

パー　キーンミュイ　齒を食ひ締める、――非常に緊張した場合など。

パー　葉。

ヒーンパー　木の葉。ヒシバーともいふ。

パータチ　數詞。二十。數の二十及び年齡の二十歳の事はニヂューといひ、パータチは子供が毬をつく時に用ひる語で、二十一をパータチ・ティー、二十二をパータチ・ターといふ樣に數へる。

パーネイ、パガネイ(早)　顎の關節。アディマー及びカンガネイに同じ。

パーネイ　ファンディュイ　奢侈する。顎の關節が外れるの意。「ドーモー　シュイ」ともいふ。

パーネイ・ファンダー　奢侈した者。

パイ　針。鈎。鍼。

パイタ、パイタ(阿・老)　口の鄙語。ユムパイタとすれば更に卑しめていふ語となる。

パカ　普通タマヤを置いた墓、卽ち假埋葬の墓にいふ。ティラ參照。

パカス、パカバス　假埋葬地。石塔のある墓地には普通ティラバスと云ひ、兩者場所を異にするのが普通である。

ヤリ・パカー　荒墓――古墳。

パガイサイ　烈しい。勇ましい、早いといふ意もある。例「もつとパガイク(敏捷に)手足を動かせよ。」

パカシュイ　身をかはす——身體を急轉して避ける。かはすの音位を轉換したものか。

パガマ　釜。——鍔のある釜で、、專ら飯を炊くに用ひる。

パカマトゥイ　舊暦九月以後の壬戌(みづのえいぬ)の日に行ふ墓の祭。墓前に料理を供し、同一墓場を持つ者が寄合つて露天で宴會する。部落に依つてはシバサシーにこれを行ふ。ウヤンコー及びホースマトゥイに同じ。

パカメー　墓參り。

パク　箱。又は棺——死體を容れるもの。

パグイ(阿)、**パブイ**(小野)　羽織。

パゴーサイ、パヲーサイ(老)　穢い。けがらはしい。又は人を非常に毛嫌ひして斯くいふ事がある。

パゴーミチュイ　穢ながる。嫉む。又嫌がる。

パゴーカ　連體形。汚き。又は嫌な。ユム參照。

パシ　橋。又は梯。

パシ　箸。ティムトゥに同じ。

エー・ファシ　箸から箸へ物を受渡しすること。これは改葬の時人骨などにするもので、食物にすることを非常に忌む。相箸の義か。

パシカ　麻疹。

パシクエー　子供の遊戯の一種。シーソー戯。

パシトゥ　副詞。力を強くといふやうな場合に用ひる。

パシトゥ　ウスッキリ　うんと、押しつけよ

パシユイ　走る。

パシッカベー、パシーックー(阿)　駈競べ。

パシラ　柱。パシタといふ事もある。パヤに同じ。帆柱にもパシラといふ。

パスカ・ショーガトゥ　舊の正月二十日をいふ。この日正月のやうに美衣美食をして遊ぶ。

パタ　旗。

パタ　端。——はし、ふち。側——そば。

パタ　絲車。

パタ、パタムン　機。古い人はヌヌバタ又はヌヌバタムンともいふ。

ヂ・バタ　ゐざり機。昔の機で、今では芭蕉布を織る場合などに稀に用ひられるのみ。

ナガ・ファタ　紬を織るに用ひる新しい型の機。

シミ・バタ　絣の模樣を付けるために、絲を數十本合はせ糊を付けて堅くしたトゥルチリーと稱するものを織る機。

タティ・バタ　布の掛つてゐる機——織りつゝある機。機に絲を掛けて織るやうにすることを「パタティユイ(立てる)」といふ。

機具の名稱

マッチャ、マキチャ　機の後方にある縱絲を卷く棒。卷板の義。

メーサ、メグサ　右の絲を卷く時亂れるのを防ぐ爲め挾む細い板。越後南蒲原地方でいたくさ。

ウサ、グサ(阿)　筬框。

ブドゥチ　筬。

ピドゥチ、ピヅキ(小野)　梭。

ピヤ　梭を通す際、縱絲を上下に開くに用ひる絲通し。

アディ・ボー　右のピヤに縱絲を通す爲上下の組分けをするに用ひる棒。アディ參照。

シッチャ　敷板——坐る板。

クグ、ヌチンダー　筩。横絲を卷く管、梭に嵌めるもの。ヌチンダーは緯管の義。

パダー、パダカ　裸。

パナダーユイ(小野)、パダナーユイ(小野)　裸になる。

パダカ・ナン・ドゥー　裸身。裸になれる身體の義。

マッパダカ　眞裸。

パターユイ、パターウイ(阿)　擴がる——はだかる。

パテーユイ　擴げる。

パダシ　素足。ハラッピャともいふ。

パダムチ　肌持——氣候の。

パチ、ハチー(花)　蜂。

ガヤ・パチ　くま蜂。

パチンスー　蜂の巣。

パヂ　恥。又左の例のやうに接尾語的に用ひることがある。ヂリの條參照。

パヂ　チラシュイ　恥をかゝせる。「パヂ　カカシュイ」ともいふ。

ナチ・ファヂ　ネーン　泣きつぽい。泣き恥がないの義。

アチ・ファヂ　ネーン　厭きつぽい。厭き恥がないの義。

パヂ　金や品物を出し合はせて仲間で食ふこと。又世間の人との物質的交際。後者にはチュファヂともいひ、人並のハヂの出來ない事を恥辱とする。

パチガトゥ・アスビ　舊曆八月から九月にかけて行ふ年中行事。相撲、八月踊等があり、二日に亙つて酒食遊興する。最大行事の一つである。

パヂヂ　月の七日八日若しくは二十二・三日の朝夕行はれる釣り。

アサ・ファヂヂ　朝太陽が水平線へ昇る前後一時間程の間に行ふパヂヂ。

ヨーネー・ファヂヂ　同樣の日沒前後のパヂヂ。

パチャグミ　籾をいためて拵へたおこしの一種。昔は菓子の樣に重寶がつたといふ。

パヂャラオー　彼の世の國としての墓地のかしら。それには其墓地に最初に埋められたものがなると謂ふ。

パヂャラオー・アヂー又はパヂャラーヂーともいふ。

パチュイ　吐く。

パッチャンビュイ　吐き散らす。

パチュイ　佩く、但し首や肩から物を提げるにいふ。

クビ　カラ　トゥナ　パチ　アッチュン　ムノー　アラン　首、から(に)、繩(を)、かけて、歩く、ものでは、ない。縊死をした者の亡靈が、さうして歩くといふ。

パッカシャイ　恥かしい。ウカサイ參照。

パッコーサイ　藁などを扱つた後皮膚が痒くなる感覺にいふ。靜岡の方言にハシコイ。

パッチュイ　割り開く――切開する、果物や魚鳥の腹などを。

パッチュイ　撥ける――はぢける。

パッチュイ　彈く。

パットー　法度。

インガー・ファットー　犬法度。村で約束して犬を飼はないやうにする事。

パトゥ　お初。ウファトゥともいふ。

ミドゥン・パトゥー　水のお初。

セーン・パトゥー　酒のお初。

パトゥ、パトゥー　鳩。

パトゥ　指を喰へて鳴らせる口笛。それを鳴らすことを「パトゥ　フチュイ（吹く）」といふ。スーブチ參照。古語はとふく秋。

パドゥ、パー(老)　筈。

シューン　パドゥ　ヂャ　來る、筈、だ。阿傳の老人は「スーン　パー」ともいふ。

イク　パータ　行く、筈だつた。――行けばよかつた。パータはパイヤタ又はパンヂャタともいふ。

パドゥシ、パンダシ　端――外れ。例「村のパドゥシにお宮がある」。パンダシは縁(ふち)の意にも用ひられる。

パドゥシュイ　外す。

ヤ・ファドゥシ　家を空にして外出する事。

パンディュイ　外れる。

パドゥチ、パヅキ(小野)　入墨。入墨する事を「パドゥチ　トゥチュイ（つく）」といふ。アディバヌー參照。

パテー　畠。

パテー　トーシュイ　畠を鍬で打つ。トーシュイは倒す。「パテー　ウチュイ」ともいふ。

パテー・ウム　里芋。田芋には單にウムといふ。

パテーチ　繩などの長さを計る語。一尋の半分即ち指先から胸の中央迄の長さで、一尋半をチュフィル・フアテーチといふ。肩絎の義か。

パナ　鼻。

パナ・ムチ　ダーサ　鼻が高い――何かを鼻にかけて威張る。鼻持高しの義。

パナ　クラビティ　子供などが大勢揃つて押しかけて來る形容。鼻を競べての義。

パナ　花。

アー・ファナー　赤い花。黄色の花などにもいふ。

パナ　突端。

ヒン・パナ　木の上。

タカ・ファナ　突出て高い所。

パナグリー　からかひ——ざれる事。からかふ事を「パナグリー　シュイ」といふ。鹿兒島ハナグイ。

パナコーカー　鼻聲。例「風邪を引いてパナコーカーになつた」。

パナシ　話。「パナシ　シュイ」は話をする。

パナダイ　はなたれ——鼻垂。

パナダイー　はなつたれ小僧。

パナミ　魚の卵。孕みの義。

パナミュイ、パナニュイ(阿)　孕む。

パナミッチュ　妊婦。孕み人の義。

パナメー　被ひ米——被ひに用ひる米。又神に供する米。

パニュイ、パウイ(阿)　土産又は御馳走などを近所近親へ配る。

パニュイ、パウイ(阿)　剝ぐ。

パニュイ、パウイ(阿)　はぐ——造船する。

パネィ　羽。翼。

パネィ・スダヤー　鳥などの傷ついて翼の垂れてゐること。

パネィドゥンガー　鳥が雨にびしよ〳〵に濡れてゐる様にいふ。

パネィ　高倉の軒。クラン・パネィーともいふ。

パビラー　蝶。蝶を祖先とする信仰がある。古語かはびらこ。

アヤ・ファビラー、アヤ・ファビル(歌言)　大形の斑紋を有する美麗な蝶。

パビラー・ガヤー　こぶな草。蝶に似てゐるので斯く謂ふと。

パマ　濱。

ウッパマ　廣い濱のことをいふ。

パマッカ　鳳仙花。トッサグに同じ。

パマリー　舊暦五月から六月の間の甲子の日の仕事休み。轉じて大勢が仕事を休み遊びにふけつてゐる事を「パマリーしてゐる」と言ふ事がある。此の行事は現在は行はれない。

パミヂョー　仕事をする意氣——熱心。

パミヂョー　ヌ　タラン　仕事をしようといふ熱心さが足りない。

パミッキュイ、パミスキュイ　精出す——頑張る。例「今年はパミッキティ(連體形)砂糖黍を作つてみよう」。鹿兒島ハメツケル。

パヤ　家屋の柱。ヤバヤともいふ。パシラに同じ。手久津久部落ではパリャといふ。

パヤスキー　銚子。カンビンともいふ。

パユイ、パウイ(阿)、**パユリ**(歌言)　去る——行く。過去形はパチャ又はパチ。歌の句に、「あの雲見りば風連りてパユリ」。かるの訛か。

パイッティユイ　足を早めて連れを後になす。行き捨てるの義。

パユイ、パウイ(阿)　擴げる——張る。

ハサ　ファリ　傘(を)、開け。

パユイ、パウイ(阿)　水が流れる、汗がにじむ、血が流れる。その他動詞はパラシュイ。

パユイ、パウイ(阿)　舟が走る。

ブネイ・ファラシェー　競漕。

パラ　腹違ひ、妾腹などの腹に相當する。チー及びスラ參照。

スラ・ファラ　血統。

パラチュー・ウヂ　父母の從兄弟。

パラチュー・ウバ　父母の從姉妹。

パラチュー・ミーッカ　從兄弟姉妹の娘。

パラチュー・ウィーッカ　從兄弟姉妹の息子。

パランブリメー(小野)　姙婦の振舞。——近親の姙婦を招待して御馳走する事。孕み振舞の義。

バル　農作場としての野原。

パル・シャー　農人、又は野良仕事をしてゐる人。

トー・バル　これは固有名詞として殘つてゐるが、トーは廣い平坦な場所の意である。

パレー　負債。

パレー・フォー　拂ひ前。トゥイ・フォーは取り前。

パレー　動物の脂肪。但し體肉と內臟との間にある眞綿樣のものにいふ。

パレー　不吉を祓ふ儀。巫女、占者、神官などが賴みに應じてこれを行ふ。

パローヂ　親類。シンディーに同じ。

ウヤ・ファローヂ　親や親類の意であるが、極近親の意に用ひる。

ミー・ファローヂ　緣組によつて新しく出來た親類。新親類の義。

パンゴー　一合桝。

パンシュー、パンスー(阿)、**パヌス**(浦原)　甘薯。福建語蕃薯から來たものといふ。

パンソー　笛——總ての笛類にいふ。

パンタ　坂の頂上、絕壁になつてゐる處。

パンヂリ　炊事に用ひる盥。

パンディユイ　外れる。

パングシュイ　外す。

バンティン　半纏。
バンドー　甕の大なるもの。鹿兒島ハンヅ。
バンメー　食糧。飯米の意であるが、甘藷にも又家畜の食糧にもいふ。

〔ピ pi, fi〕

ピ、ピー　日――今日の日などの日。
ピ、シ(阿)　破傷風、傷口から入る一種の風と云はれる。それに罹ることを「ピ　イユイ」即ちピが入るといふ。
ピー、シー　女陰。ブーに同じ。
ピー　屁。屁を放るを「ピー　フィユイ」。
ピーチ、ピキ(小野)　偏した不公平な好意。贔屓の義。
ピーファー　蛇類の總稱。靑大將をいふこともある。
ピーユ　植物の名。ひゆ。
ナンブ・フィーヤー　なめりひゆ。
ピカイ　光。
ピカイ　舟の左舷。又取舵。ウサイ參照。

ピガラ、シアラ(阿)　日柄、十二支十干を組合はせた其日々々の吉凶。
ピシ　干瀬。
ピシュイ、ピスイ(阿)　押込む――小さい穴などに物を押込むにいふ。
ピシクニュイ(阿)　ピシュイと同じ意に用ひる。
ネイドウミン　アナー　ニ　ティッティトゥ　ミチャ　フィシクディ　ウチャ　鼠の、穴、に、一つ〳〵、土(を)、押込んで、置いた。
ピタ　下手。
ピタ　程。接尾語として用ひた例は、シャ及ぴインの各條參照。
マンカー　ヌ　ピダ　ム　アン　ヤヂー　小馬、の、大きさ、も、ある、山羊。
ピダイ、シヂャイ(阿・老)　左。ヒヂャイといふ所もある。
ピダイー　左手利き。
ピダイ・ウチャーシ　左褄。亡者の着方として忌む。
ピダイン・ナ　左縒りの繩。又七五三繩のことにもいふ。
ピチ、ピキ(小野)　頸より肩にかけての筋肉。けんぺきの義か。
ピチ　イヂユイ　肩が凝る。イヂユイは出る。
ピチ、ピキ(小野)　緣引。男系の血緣關係をいふもので、先祖の名又は本家の名を用ひて、何々のピチと呼ぶ。

ビヂ　肱。

ビヂ　凶事などを親戚に通知すること。

ビヂュー、シヂュー(阿)　一日中、夜中(ユチユー)に對する語。

ビヂン　飢死。干死の義。鹿兒島ヒヂン。

ビッカユイ、シッカウイ(阿)　溜つてゐた水が乾いてなくなる。又は腹などが減る。

ワタ　フィッカタ　腹(が)、空つた。

ビックー　寒さに凍えること。例「夏の雨でも一日濡仕事をするとビックーする」。

ビックー　シュイ　凍える。

ビックミー(小野)　宴會の後、同志が寄合つて互に銘々の家を順次飲み廻る事。花良治ではユーリー、阿傳ではユーイッチュ(醉人)といふ。

ビッケーユイ、シッケーユイ(阿)　引掛ける。又すねる——「ハブイ　シュイ」に同じ。

ビッカーユイ、シッカーウイ(阿)　引掛る。

ビッサイ、ビスサイ　薄い。例「昔の豆腐に比べると近頃のは大分ビスク(連用)なつた」。又は疎である——種などの蒔き方にいふ。

ビッスイ　潰す、蚕などを。

ウチ・ビッスイ　打ち潰す。

ウシー・ビッスイ　押し潰す。

ビッチャーワン、シッチャーアン(阿)　引合はない——損する。例「砂糖の値がこんなに下つては難儀して作つてもビッチャーワン」。

ビトウ　海豚。海豚の群が東北の方へ進む時は、やがて雨が降るといふ。

ビドウイ　旱。

ビトウトウファ　槇。一つ葉の義か。

ビドウマイ　月の十八・九日の潮の干度にいふ。此の頃の潮は干度が高いが、二十日頃からは除々に低くなる。干止りの義。

ビナユイ、ビナウイ(阿)　減る。古語へなる。例「六月植の諸は出來が良くて、いくら掘つてもビナラン(減らない)」。

ビニー(早)、**ビギー**　ひげ。——鬚、髭、髯等。又植物の氣根や細根にもいふ。

ビマ、シマ(阿)　暇。

ビマ　カミュイ　暇取る。カミュイは食ふ。

ビマ・ドーリ　暇を費す割に效果の尠いこと。暇倒れの義。

ビムシ　馬の蹄の腐る病、それに罹る事を「ビムシ　イユイ(入る)」といふ。

ビャ(小野)、**バ**(嘉)　足。・サに同じ。

ビャ　馬に足を上げよと命ずる語。

ビャシュイ、ビャカスイ(阿)　冷す——熱などを。

ピヤカシュイ　素見(ひやか)す。

ピヤナギ　花火。

ピューイ、スーイ(阿)　日和。

ピュー・ドゥイ、スードゥワー(阿)　鴨。單にピューともいふ。

ピュイ　放(ひ)る。糞を——、屁を——。糞にはマュイといふのが普通である。

ピュイ　肉や大根などを細かく刻む。古語ひう。

ピュルサイ、シュヌサイ(阿)　寒い、冷たい。

ピュルカ　ティンキ　デール　お寒い、天氣です。

ピュル・ミドゥ　冷水。

ピュウイ(マ)　冷える。

ピュリ、シュイ(阿)　さかり、——畜類の交尾期に入れる狀態。

ピュリ・マヤー　さかり猫。

ピラ、シラ(阿)　坂。又は屋根の斜面。ヤーン・ピラーとする時は屋根となる。

ピラーユイ、ピレーユイ、シレーウイ(阿)　平たく潰れる。例へば大風で小屋が潰れる、又は下駄がすり減らされて平たくなる等。

ニンニ・ピラーシュイ　握り潰す。

クン・ピラーシュイ　踏み潰す。

ピラー、ピレー　平たきもの。

ピラサイ、ピチャサイ(早)、**シラサイ**(阿)　低い。

ピラユイ　へり下り仕へ或は交はる。——嫁が舅姑に、或は世間のつきあひに於て。シュートゥの條參照。

チュピレー　世間の人々に對する謙遜な態度のつきあひ、或は和を保つ努力を伴ふつきあひ。例「チュピレーは下手な女だが、シュートゥ（舅姑）にはよくピラティ（仕へて）ゐる」。

ピル、シル(阿)　晝。

マ・フィル　眞晝。

ピル・マ　晝間。

シル・シンナイー(阿)　白々と夜の明ける頃ほひ。白晝なりの義か。

ピル　蒜。

ピル　尋。一尋をチュ・フィルといふ。パテーチ參照。

ピルクミュイ、シルクニュイ(阿)　痺れる——足などが。

ピルサイ　廣い。

ピルピルー　トゥ　廣々、と。

ピリユイ、シリユイ(阿)　拾ふ。トゥメーユイ參照。

ピン　變事。

ピンゲ　垢。

ピングッタネイ　垢だらけ。

ピンヂャー、シンヂャー(阿)　山羊。

ピンドウー　馬の栗毛色、又は栗毛色の馬。

ピントー　返答――返事。

イチ・ピントー　シラン　うんともすんとも返事をしない。

ピンニユイ、シンニユイ(阿)　逃げる。ニギユイともいふ。

ピンマー、シンマー(阿)　晝下り――午後二三時頃。マフィンマ參照。

ピンマ・バン　晝飯を上品に言ふ語。アシーに同じ。

ピンマー・ハター　ピンマーと同じ意にも用ひられるが、陽が傾いて陽照の弱くなつた頃といふ意にも用ひる。

ピンマヂキ(小野)、**シンマヂチ**(阿)　朝食――午前八時頃。ムンともいふ。沖永良部島でヒマヂキ。

[プ Pu, fu]

ブー　頬。

ブー　運。鹿兒島フ。

ブー　ヌ　ネーラン　運、が悪い。――廻り合せが悪い。

ブー　接尾語。動詞について動作が將に起らうとして止んだことを表はす。

ウティラン・ブー　將に落ちんとする所であつた。

アブネー・フー　ヂャタ　危機一髪といふ所、だつた。

ブー　茅屋根を葺く時に、屋根の上に茅を並べ、それを壓へて締めるに用ひるもので、竹と薄を合はせて藁で卷き、約一丈程の長さにしたもの。

ブーキー　鞴。

ブークー　のげし。

ブークー　奉公。

クッチュ・ブークー　食ふだけの稼ぎ、少しの餘猶もない生活。ロの奉公の義。

ブーシー　小兒のよだれかけ。こぼしの義。

ブーテー　風袋。

ブーネイン　豐年。

ブーファン　帆前船。

ブーミチュイ　蒸し暑い。九州地方の方言にホメク。

ブーミチュン　ティンキ　デール　蒸し暑い、天氣、でございます。

ブーム　埃――煙のやうな埃にいふ。

ブーラー　芭蕉の纖維、――捩つて紐を拵へる。多く筵の縱紐に用ひる。

ブーリー、ブーイー(伊)　接尾語。――ふり。
ミラン・ブーリー　見ぬ、ふり。――そしらぬ顔。
ブールー　獨樂。
ブイ　接尾語。回――度。例へば一回はチュフイ、幾度はイクフイ等。
ブガシュイ、ブワスイ(阿・老)　穴を明ける。鹿兒島ホガス。
ブギュイ　穴が明く。
ブク　肺臓。普通動物のに言ふ。
ブクチ　ほくち。昔の燧火をうつすに用ひた朽木を粉にしたもの。轉じて朽木。
ブグリ、ブグイ(伊)、**ブーイ**(阿老)　陰嚢――ふぐり。阿傳語のイは鼻音。
ブシ、ブシ　節。
デーン・ブシー　竹の節。
ブシ　歌の節。
ウドゥイ・ブシ　踊り節。――踊る時に歌ふ歌。
ブシ　星。
ブシバリュイ　星晴れるの義。夜空に一點の雲もなく、群星がきら〳〵輝いて明るい事にいふ。
ブシヌッス　隕石。流星にいふ事もある。星の糞の義。
星の名稱

アートゥチ・ヨーファー、アートゥチ・ヨーワー(阿)　曉の明星。
ヨーネー・ヨーファー、ヨーネー・ヨーワー(阿)　宵の明星。
ブリ・フシー、ブリー　すばる星。ブリョーファーといふ事もある。
アブラゴー　數個の星が集つて、油を量る桝の形になつてゐるのに云ふ。
ナナトゥブシ　北斗七星。七つ星の義。
ミツリブリ(小野)　オリオン星。
ブスクー・バイ　遊星の名。星群の形がブスクーといふ魚を引掛ける針に似てゐるのでこの名稱がある。
ポーチ・ブシ　彗星。はうきぼし。
アマヌカワ　銀河。
ブシャイ、ブサイ(阿)　欲しい。接尾語ともなる。
ミー・ブシャ　シュイ　見度く、する。――見たがる。
イチ・ブシャイ　行き度い。
ブシュイ、ブスイ(阿)　乾す。
ビ・ブシ　日乾し。
カギ・ブシ　蔭乾し。
ブス　臍。
イヂ・ブスー　出臍。

ブス　トゥニュイ　臍をつぐ、産兒の臍を斷つこと。

ブス・アンマー(小野)　産兒の臍をついだ女にいふ。臍母の義。

ブタ　蓋。・タといふ事もある。

ブタ・イトゥク　ふたいとこ——再從兄弟姉妹。

ブチ　蕗。

ブヂミッチェー　おでこ——額の尖つた者。

ブチャラベー　舊曆三月頃に吹く東風に謂ふ。此の風が吹けば死人も頭痛を起すと云ふ。古歌に（死人の詠んだ歌とも謂はれる）、「ブチャラベぬ吹きば御頭ぬ痛みゆり、北風ぬ吹きば氣味ぬゆたさ」。

ブチュイ　茸く——屋根を。

ブチュイ　吹く——息を吹く、風が吹く等。又口から物を噴き出す。

チー　ブチュイ　血を、吐く。

ブチュイ　沸騰する、——湯や粥などが。

ブチュイ　鳥肌を生ずることや織物の面がけばだつ事を「ヒー(毛)　ブチュイ」といふ。

ブディ　筆。

ブディ、ブドゥリ(浦)　稻光。

ブティー、ブティー・ウシ　特牛。

ブッカシュイ　物を水に漬ける、洗物を豫め水に漬けて置く等の場合。

ブッキュイ　膨れる、又は腫れる。

トゥラ　フッキラシュイ　面をふくらす——むつとなる事。

ブッチー(小野)　全く。又は斷然。

ブッチー　ピヂュー　丸一日。

タバコー　ブッチー　ヤミタ　煙草は、斷然、止めた。

ブトゥ　蓬。又その葉を乾して作る艾。

ブトゥ・ムッチー　蓬餅、——三月三日の端午の節句に作る。

ブドゥ　程、程合。

アリ・ブドゥ　あれ程。

フドゥ・ウビサイ　身體が大きい。

ブドゥキ　着物の綻び——縫目の破れる場合。ミンダチ參照。

ブドゥキュイ　解ける——結び目などが。

ブドゥチュイ　右の他動詞。解く。

ブトゥン　蒲團。ウドゥに同じ。

ブドゥン・ガナシ　巫女。人の賴みに應じ、呪文を唱へて病を治し惡靈を拂ひ、又死者などと語り一種の靈媒をなす。呪文は型がなく時に應じ無意識的に口走るを特徴とするといふ。ユタ及びアートゥトゥともいひ、又カミサマともいふ。

ブトウンニュイ　慄へる。ブンニュイに同じ。

フトウ・フトウ　ぶる〳〵——慄へる形容。

ブデーダグ　子供の股の付根に出來るごり〳〵。成長する塊の義。

ブデーユイ、ブディーユイ　成長する。せいが高くなる。——總ての生物にいふ。

ブデータ　ムン　ヂャ　大きくなつた、もの、だ。——久し振に逢つた子供などにいふ語。

ブナトー(老)　帆前船の船頭又は乘組にいふ。

ブナトー・マチ　頰被り。船乘卷の義。ヤマトゥ・アヂンカーともいふ、大和の爺さんの義である。

ブナ・ムケー　船迎へ、旅先から歸る者を船着場に迎へること。

ブネィ・イヂャシ　船送り。船出しの義。

ブナムシ　船蟲、甲殼類に屬する節足動物。

ブネィ　船、小舟にも汽船にもいふ。

ブネィ　骨。

ブネィ・ヤバラサイ　身體がひよわい。——荒仕事をした事のない者などに云ふ。骨やはらかいの義。

ブネィ・ファラシェー　競漕。舊曆五月五日の節句に行ふ。

ブネー(老)、**ブナメー**(老)、**ブナマキ**　船酔。ヂブネー參照。

ブユ　冬。

ブユ・ティダ　冬の陽足——短い事を意味してゐる。

ブユウンミ、ブユグンミ(阿)　舊曆九月以降最初の庚午の日に行ふ折目(ウンミ)の一。當日は火の神(ショーンニャラシー參照)を祀り柏餅(ハナームチー)を作る。

ブリー　氣狂。輕蔑的にいふ馬鹿の意にも用ひる。ブリムンともいふ。

ブリ・アッシー　徒遊び(むだあそび)——遊びぼうけ。狂ひ遊びの義。

ブリユイ　氣が狂ふ。又物事に夢中になることにも云ふ。

ブリテー　ウラミ　何を言ふぞ——氣でも狂つたか。

ブリユイ　惚れる。

ブリチャーユイ　惚れて夢中になる——うつゝを抜かす。又好きな物や事に無我夢中になる事。

ブルサイ　古い。

ブルミュイ(小野)、ブルムイ(嘉)、ブルニュイ(阿)　古む。

ブルミュイ、ブルマシュイ　古める、又は汚す。

ブルシキ　風呂敷。

ブルメー　饗應——ふるまひ。グチスーともいふ。

ブレーユイ　堪へる——辛抱する。食ふ物を食はずに堪へる、又は勘辨する等。

ブロー　さゝげ——裙帶豆。

ブワカリー(阿)　別宴、——永の別れに行ふ。

ブワミ、ブワミ(阿)　陰阜、古語ほがみ。

ブンガイ　屋根の茸替。

ブンデー　接尾語。――放題。

イー・フンデー　イユイ　云ひ放題、(に)言ふ。――さんゞに人を罵倒すること。

ブントー　本當――眞實。

ブントー　ナ　本當、か。

ブンニャマー　篩。これは目の小さいもので、米、麥、粟などに用ひる。ミーファヤー參照。

ブンニュイ　慄へる。ブトゥンニュイに同じ。

ブンヌムン　木物。

ブンミュイ　燻る。

〔ペ pe, fe〕

ペー　蠅。

オー・ペー　青蠅。

ペーヌッスー　蠅の糞。又はそばかす――雀斑。

ペー　灰。ユネイに同じ。

ペーイ、ペーリ(土嘉)　酢。

ペーイ・ミスー　酢味噌。スミスともいふ。

ペーク、ヒク(阿)　早く、――急き立てゝいふ語。例「ペーク來い」。

ペーサイ　早い。

ペーシ　歌や三味線の囃し。

ペーシュイ　喉(はしか)ける、――犬などを。又唆す、おだてる等の意にも用ひられる。

ペーユイ　早める。

・サ　ペーリ(阿)　足(を)、早めよ。

〔ポ po, fo〕

ポー　遙かなる方。又は中心點に對する外側の方、――例へば部落の内に對する部落の外、海上では船の位置から島の方はウチ、反對の沖の方はポーとなる。

ポー・ガー(小野)　家の子に對し妾腹に出來た子。

ポー・ソーデー(阿)　本妻の子から妾腹の兄弟姉妹に對しいふ語。

ポー　占ひ。イキ(易)ともいふ。

ポー　シュミユイ　占はせる。――ポーをさせるの義。

ポー・シャ　占者。イキ・シャともいふ。

ポーソー　天然痘。
ポーソン・カター　あばた。カッパーに同じ。
ポーチ　箒。
ポーチ・ダミ、ポーンダミ　掃溜。
ポーチャー　植物の名。はまびわ。
ポーチュイ　掃く、風が吹きまくる、食物を平げる、どやす——ぶん撲る。等の意に用ひる。
ヤンメー　ポーチュイ　庭(を)、掃く。
ニシ　ポーチュイ　北風(が)、吹きまくる。
ポーチョー、ポーチャー(小野)　庖丁。ハタナともいふ。
ポーバネィー　生來足先が外方に向いてゐるものにいふ。内側に向いてゐる者には、ナカクミャーといふ。
ポーブー　こがね蟲。
ポーベー　朋輩。ドウシに同じ。
ポーユイ、ポーウイ(阿)　匍ふ。
ポーヤーシュイ　匍ひ廻る。
ポーユイ、ポーウイ(阿)　水や砂などを振り撒く。
チョー　ニ　スナ　ポーリ　門前の道、に、砂(を)、撒け。
ポーラシャイ、ポーラサイ(阿)、**ブクラサ**(歌言)　嬉しい。

ポーラシャ・チェーサ・シュイ　嬉しさう(に)、してる。
ポール　場所を數へる語。
ミフォール・ユフォール　三四ケ所。
ポーレー(小野)　諸所方々。アマクマともいふ。
ヂャー・フォーレー　何處も彼處も。

〔パ　無氣音〕

パラ　無一物。
テーフー　ヂ　ナイムノー　パラ　ヂャ　大風、で、なり物(主として蜜柑類)は、皆無、だ。
パラー(阿)　紙鐵砲。但しウムッシーといふ木の實を用ひる。パラーはその音から來た名稱か。

〔ピ　無氣音〕

ピーピー　ピーピー音を鳴らせる玩具。又木の葉や阿旦の葉で造つてピーピー鳴らせる草笛。

〔バ〕

バ　助詞。を。略して用ひない事が多い。鹿兒島バ。
ヂー　バ　カチュイ　字、を、書く。普通「ヂー　カチュイ」と云ひ、バを用ひると書くといふ意が強くなる。

バ　助詞。ば。
イカ　バ　イキ（ム）　クラ　バ　クー　行く、なら、行け、來る、なら、來い。「イチュテー　イキ　シューテークー」ともいふ。
イヤ　バ　チキ（ム）　云ふから、聞け。——云は、ば、聞け。

バ　ねばならぬといふ意をあらはす助辭。
ワノー　イカンバ　私はもう行かう。——行かねばならぬ。
ダー　イカンバ　お前は早く行かねばならんぞ。——何をぐづ〳〵してゐるかといふ語調。

バ　つもり。普通トゥムイ（ム）といふ語を用ひる。
ワンバ　ウドゥッカシュン　チューッバ　ヂャタロー　エー（マ）　自分を、驚かさう、といふつもり、だつたのだらう、て。

バー（兒）　否。ババの同意語。

バー　長姉。イナンマーともいふが、部落や家庭の慣例により孰れかを用ひる。
バンカー　次姉。カーは指小辭。

バー・ワーラン　言葉の音がだら〳〵して何を云つてゐるのか分明でない。——二三歳の小兒や啞などの言葉などの場合。トゥードゥ（ム）參照。

バカ　馬鹿。

バクー　博勞。バクとすれば交換の意になる。例「お前の馬は何處のバクーとバクしたか（何處の博勞と交換したか）」。

バケームン　化物。ヒンムン及びマブイ參照。

バシ　——でも。例「顏色が悪い樣だがアンベーバシ悪いのではないか」。ディムともいふ。

バシャー、バサー　芭蕉。
バシャン・ナイー　芭蕉の實。
バシャー・ニン、バサー・イン（マ）（阿）　芭蕉の纖維で織つた着物。

バシュ、バス　場所。又場馴れするを場所を踏むといふ。
バシュ　クダン（ム）　シコー　アル　場所（を）、踏んだ、丈は、ある。——場馴れて立派な態度だといふ意。

バタバタ　さつさと——急いで。例「バタバタ歩け」。

バタミチュイ　非常に急ぐ——狼狽てるといふに近い。例「餘りバタミチ（急ぎ狼狽てゝ）怪我するなよ」。
バタクユイともいふ。

バチ　罰。罰當る事を「バチカンビュイ（かぶる）」といふ。
バチ・アタイ・ムン　罰當り者。
バッカシュイ、バッキュイ　しくじる——仕損ずる。
アイヤ　バッカチャ　あつ、しくじつた。
イー・バッカシュイ　言ひ損ふ。
バッカチム　アッサ　クトー　ネーラン　間違つても、そんな事はない。斷じてその様な事はないの意。
バトウ　罰。
ティン・バトウ　天罰。
ババ　人の要求を拒絶する語。否。バーともいふ。
ババ　ドー　眞平御免だ。
バム、バン　助詞。とも、左の例の場合。
イカ　バム　ウカ　バム　カッティ　シリ　行く、とも、行かない、とも（止すとも）、勝手（に）、せよ。
バン　番——見張り。又は順番。
ヤン・バヌー　留守番。
バン　グイユイ　番狂はせになる。番崩えるの義。
バンゲ　鍛冶。カヂともいふ。

バングヤ　鍛冶屋。カヂヤともいふ。
バンシロー　蕃石榴。
バンヂョーガネィ　曲尺。番匠金の義。
バントー　番頭。
バンバラー　まばら——ばら〳〵。例「空豆は肥料にするのだから、バンバラー蒔してもよい」。

〔ビ〕

ビ　間に合ふの間に相當する語。複合語としてあらはれる。
ビ・ナラン　間に合はない。又役に立たないの意に用ひることもある。「ビ・ウタン」又は「ベー・ウタン」ともいふ。
ビ・ナチ　クリ　間に合はせて呉れ。
ビーヂャラー（小野）　みみず。ミミダーに同じ。
ビーチャー、ビキャー（小野）　蛙。
ビッタイ　べつたり、物がべた〳〵に付いてゐる形容。又軟い形容。
アーニー　ヌ　ビッタイ　カティ　ウイ　蟻、が、べた〳〵に、付いて、ゐる。
シミリチ　ビッタイ　ナトゥイ　濕つて、軟かく、なつてる（黒砂糖などの場合）。

ビドゥル　硝子。今ではガラスといふ者が多い。

ビユイ　吠える――犬にのみいふ。

ビラ　野蒜。ネイビラーともいふ。

ビルー　生れつき身體がひ弱く、發育の不完全な者にいふ。ひる子の義。

ビンタ　横面――こめかみの邊。又單に頭の意にも用ひる。鹿兒島ビンタ。

ビンタクラーサリミ　横面を、はられるか。――子供などを叱る場合によく云ふ語。

ビンター　禿――傷痕。

ビンダレー　金盥。鹿兒島ビンダレ。鬢盥の義といふ。

ビンヂョーワー　妖怪の一種。夜半に道の四辻などで、突然小豚のやうなものが無數に現れて人を追ひ廻すといふ。現今ではあまり聞かない。

ビンドウク　便毒。

ビンドウン　占ひ石。志戸桶の部落に祭られてある石で、兩手で持ち上げられる時は吉、持ち上げられぬ時は凶とされる。琉球のビヂュルの一種か。

ビンブー　貧乏。ウッキュイの條參照。

ビンブー・ムン　貧乏人。

〔ブ〕

ブー　夫役――村の仕事を各戸に割り當てゝ行ふ事。

ブー(小野)　女陰。マニューに同じ。

ブートウー　貝の一種、螺旋狀をなし、小さく堅いブツ〳〵がある。

ブーラー　はまおもと。彼岸花科に屬し、よく海岸に生ずる常綠大形の多年生草木。和名ではまゆふともいふ。

ブアカン、ブヤカン　物を粗末にする事、不整頓な事。親をブアカンするな等とも用ひる。

ブイブイ　不機嫌な顏つきの形容。例「夫婦喧嘩でもしたのかブイブイして口もきかない」。

ブカサイ　脆く軟い。

ブカー(阿・兒)　相撲の弱い者。

ブカブカ　副詞。ふは〳〵と軟い觸感。――ふとんや土など。

ブギンシヤ、ブヂンサ(阿)　金滿家。ブギンシャ・ドゥンともいふ。

ブク　泡。アーブクともいふ。ブラに同じ。鹿兒島ブク。

ブシ　帽子。

ブショー、ブソー(阿)　驚き或は恐れて無我夢中になる事。

ヌー　ミチ　ウドゥッチャカ　マ　ヌ　ブソーナティ　アマウス　ヤ　何(を)、見て、驚いたか、馬、が、
夢中になつて、暴れをるのさ。「アマウス　ヤ」は過去の事を現在形で言つたもの。

ブチ　へり――縁。

ブティユイ　叱る。クナシュイに同じ。

ブティッカユイ　叱り散らす。

ブッシュク・ナユイ　非常に怒つて、それが顔や形にまで、あらはれる様な場合にいふ。ナユイはなる。
例「あまりからかつたら、ブッシュクなつて、怒つた」。

ブッテー　肥満せる者。

ブットー　棒。ボーともいふ。

ブニ、ブイ(阿)　阿傳語のイは鼻音。太鼓を叩く棒、又それに類似した棒。

ブイン　生魚(なまぶな)鹽漬にしてないもので、豚肉にもブイン・ブタといふ事がある。

ブラ　泡。ブクに同じ。

ブラ　法螺貝。

ブラ　フッチャンヂュイ　周章狼狽する。法螺貝を吹き立てるの義。

ブラ　づぼら。

ブリ　接頭語。群――澤山のといふ意。

ブリ・ガー　群子――澤山の子といふ意。例「分家者がブリ・ガー育てるのは並大抵の事ではない」。

ブリ　接尾語。見とれ、聞きとれ等のとれ、に相當する。

ミ・ブリ　ヂャ　見とれるわい、見ても見ても飽かぬわい。ミブリュイとすれば見とれる。

カタイ・ブリ　夢中になつて時の經つのも知らず語り合ふ事。

ブリー　無禮。

ブリー　シェータ　失禮、いたしました。

ブリー　ナ　失敬な。

ブリ・ウタイ　鶏の三番鶏後に思ひ思ひに歌ふことに言ふ。むら歌ひの義か。

ブン　盂蘭盆。ウブンサマといふ所もあるる。舊暦七月十三日の夕方墓參してお迎へをなし、十五日の夜燈籠を提げて墓場へお送りする。お送りのことをウクンヂャクといふ。海で死んだ人の場合は濱で迎へ、一日伸ばして十六日に濱へ送る。

ブントウ　さつぱり。

ブントウ　ヂェー　ネーン　さつぱり、面白味(が)、ない。

ブンノー・チリユイ　愛想がつきる。煩惱が切れるの義。

ブンノー　ワ　アエーラン　何の御愛想もございません。

ブンマミー　大豆。トーフ・マミともいふ。

〔べ〕

ベー(兒)、**ベール**(兒)　あかんべー、拒絶の意を表はす語で顏面の表情を伴ふことが多い。大人も用ひる事がある。

ベー(兒)　山羊。擬聲語。

ベー、ベーカレー　衆人が我も〳〵と一つの物を爭ひ求めること——奪ひ合ひ。

ベーッシュティ　イユ　ホーティ　ウイ　我も〳〵と爭ひながら、魚(を)、買つて、ゐる。

ベーユイ　酒のアルコール分が蒸發して甘くなる。例「一度燗した酒は、ベーティ飲まらん」。

〔ボ〕

ボー　少年又は男兒を呼び捨てにした語。普通はインガンカといふ。アーガーの條參照。

ボーダー、ボーヂャー　坊主頭。

ボーチャク　無一物になる事。例「商賣に失敗して親から貰つた財産はボーチャクして了つた」。

ボードウ　坊主。シッチョーともいふ。

〔マ〕

マ(阿・花)　馬。ウマに同じ。

マー、マードーン(阿)　釣竿。マードーグとすれば釣道具。

ティグス　てぐす。

ピシ　鉛の錘。

パイ　釣針。

マーイ、マーリ(上嘉)　陶器の碗。古語まかり。

ミシ・マーイ　飯碗。

シル・マーイ、シンマーイ　汁碗。

マーイッサラ　碗や皿の總稱。

マーイ、マワイ　周圍。グルイに同じ。

マーイ、マーリ(上嘉)、**モーイ**　死去。敬つていふ語。古語まかり。

マーイ　シュイ　なくなる。シニュイの敬語。

マーイ・ナミ　ニシマルキに同じ。

マーシ、マワシ　褌。鹿兒島マワシ。

マーシャー、マーサー　小兒の遊戯の一種。直徑二寸厚さ五分程の木の輪を、手斧の柄に似て先の曲つた棒で打ち、その轉つて來るのを他の者が打返す。

マーシュイ、マースイ(阿)、**マーラスイ**　廻す、回轉させる、ころがすの外金を溜めるといふ意もある。

マーラスイはころがす及び溜めるの場合に多く用ひられる。

マーユイ　廻る、回轉する、ころがる。

マーヤー・ヘーヤー　廻つたり轉んだり。例へば子供のふざけ遊ぶ樣、又仕事が多忙を極め轉手古舞する樣等にいふ。

マータラー、マータラゲー　燕。燕が低く飛び廻るは雨の降る兆とされる。

マードゥイ・マードゥイ　うろ〳〵。

マードゥイ・マードゥー　ヌー　ドゥ・シ　アッチュル　うろ〳〵、何、を、ぞ、して、歩きをる？

マーマー(兒)　馬。

マーマー・トゥ　まんまと。

マーマー・トゥ　ダマサッタ　まんまと、だまされた。

マーラン、マーランゲー　琉球の帆船。

マール　順番。

マール　マーシュイ　順番(に)、廻す。——順番で行ふ。

マール・ウドゥイ　圓陣を作つて順番に中で踊ること。

マールー　鞠。

マールー　ウチュイ　鞠(を)、つく。

ギッタ・マールー　ごむ鞠。

マイ　尻。後方。最後。又女陰をそれとなく云ふ語。

マイ・タブラ　尻べた。

アー・マイー、アーター・マイー(阿)　脫腸。

マイ・ウブッサイ　尻が重い。

マイ・ガッサイ　尻が輕い。

マイ　カミュイ　損する。尻を掴むの義。

マイ　ナユイ　人に歩きおくれる。

マイ　ミュイ　後を振返る。

マイ　ウーユイ　後を追ふ。

マイ・ムドゥイ　後戻り。

マイカラ・マイ　後から後から。

マイ　接尾語。動詞に附いて、將に然らんといふ意を表はす。

アミ　フルマイ　ドー　雨が今にも降るぞ。

マイー、マリー(上嘉)　女兒をぞんざいに言ふ語。乙女に對し言ふ時は卑しめた意になる。

マイサイ、マギサイ　大きい。ウビサイに同じ。

マイスク　霊屋（タマヤ）の前に据ゑる小卓。葬式の行列では、是を持つた者が先頭になる。

マガイ　曲り。

サン・マガイ　膝の曲り目――裏の所。

ナナ・マガイ　七曲り、幾曲りも曲つてゐるのにいふ。

マガイ、マゲー　まがひ――僞物。

マガユイ、マガウイ（マ）（阿）　曲る――まがる。別に子供のすねるの意にも用ひる。

マガヨー　曲つたもの。

フシ・マガヨー　背中の曲つた者、――老人や猫背。

マカンヂユイ（老）　罷出る。

マカンジティ　シェータソー　ブカム　アラン　ムンデンガ　罷り出て、參りましたのは、外でも、ございませんが。何か相談事に行つた時の切出し言葉。

マギー　飛魚。トウビュに同じ。

マキユイ、メーユイ（老）　負ける。

マギリ、マギー　間切と書く。昔の行政區劃の名稱で、古く喜界島は六間切に分れてゐた。

マク、ミヤク　脈搏。

マグ　孫。

ウマガー（小野）　孫の事であるが、敬意が含まれてゐる。

マクマグ　曾孫。又孫の義。

マグミユイ（小野）、**マグムイ**（嘉）、**マグニユイ**（阿）　共同する。例「三人でマグディ（共同して）舟釣りに出ようや」。

マグミ　仲間、組、組合。

マグミー、マグニー（阿）　共同。

マゴー（小野）　腋下。ワチングメーに同じ。

マサイ（阿）、**ウマサイ**　美味しい。

マカ・ムン　御馳走。――料理の意でなく味覺の上から言つて。

マサイ　勝り――増し。又は増して。

ウリッカ　マサイ　ヌ　クトー　ネン　それより、以上、の、事はない。――そんなよい事は他にないの意。

マサイ　ユタサン　ムン　もつと、美しい、物。

マサッパ　單獨に使はれた事を聞かない。

イレームノー　マサッパ（諺）　借りた物は増やして返せといふ意。

マシ　助動詞。過去の推量の意を表はす語で、文語のましに相當する。

ドウー　ヂ　イカマシ　アタン　ムン　自分、で、行くべき、だつた、ものを――。

マシュ、マス(阿)　食鹽。

マス　桝。

イッシュー・マス　一升桝。

グンゴー・マス　五合桝。

マスワー　海水が乾いて自然に出來た鹽。

マタ　又。

ニャーマタ　又も——又々。

マダ　蛸の墨。これを永く保存して腐敗せしめ、腫物の吸出に用ひることがある。

マタバス、マタ　股——またぐら。

マタバス・コーヤク　内股膏藥——日和見。

マダラ　まだら。

マチ　豚小屋。ブタン・マチーともいふ。

マヂーン　共々に、一緒に。

ナーチャニンヂュ　マヂーン　ウッタチェーロー　皆様方、御一緒に、出かけませう。

マヂクユイ　混ぜ合はせる——まぜくる。

マヂクヤーシュイ　混ぜこぜにする。

マヂ　ナユイ　邪魔になる。普通「ヂャマ　ナユイ」と云ふ。

マヂャムン　妖怪變化。

マヂャムン・バレー・イシ　道の突當りに立てる石で「石敢當」と彫つてある。

マチュイ　卷く。

ハラマチュイ　卷きつく。

マチュイ　踊る。ウドゥユイに同じ。

マキ　踊れ。ウドゥリともいふ。

ティー　マチュイ　手をくねらせる——踊りの場合。

ビャ　マチュイ　足をくねらせる——踊りの場合。

マチュイ　待つ。

ムナ・マチ　待ちぼけを食ふこと。空待ちの義。

マッチャンヂ(阿)　待ち焦れ——來るか來るかと待ち佗びる事。

マディ、アネィ(阿)、**ガディ**(小野)　迄。

アマ　カラ　フマ　マディ　彼處、から、此處、迄。

マディー　喪失の意を表はす接尾語。

ウヤ・マディー・ガー　親を喪へる子。母親のない子に多くいふ。

イニュチ・マディー　生命を失ふ程の目に逢ふを、「イニュチ・マディーするところであつた」等と使ふ。

マッカ　枕。

マッカーミー　枕元。

マックチ　最初。例「私はマックチからさう考へてゐた」。

マッサリ　干潮――その日の最低限度まで引いた潮。マフクミに對す。

マッタファー、マッタフ　斑蛇、黄と黒の斑紋がある。

マッチュー　目白。トゥユーに同じ。

マトウ　松。マトゥヌキともいふ。

マトゥヤマ　松山――松林。

マトゥン・ティーダー(花)、マトゥン・シーラー(阿)　松脂。

マドウ　暇。ヒマともいふ。

マドウ　ネーン　暇がない――忙しい。マドゥアカンともいふ。

ミラン　マドウ　ニ　見ない、間、に。――見てゐないうちに。

マドゥ・マドウ　ニ　暇々に。

マトゥー、マツー(小野)　女性の名の下に附ける一種の美稱。例へばツルといふ名に附して、トゥル・マトゥーと呼ぶ等。

マトウイ　年忌祭。ネィンチ・マトゥイともいふ。神社のお祭には用ひず。

マトゥブイ　絡みつく事、まとはりつく事。例「馬の手綱が脚にマトゥブイしてゐる」。

マトゥブイ　シュイ　絡まる。

マトゥユイ　祭る――神や祖靈を。

マドゥユイ、マドゥウイ(阿)　辨償する。ワッチャメーユイに同じ。

マトゥランシュ　三角波。波と波とが打合はせて出來た狂暴な波で、舟人が迷信的に怖れる。

マトー　廣場――平地。

ハラ・マトー　何もない平坦な場所――庭など。

マドーシュイ　浪費する。

ハネィ・マドーシ　金を浪費すること。その動詞は「ハネィ　マドーシュイ」。

マニュー、マウー(阿)　女陰。ピーに同じ。

マヌシチャー　蜘蛛。クブーといふ處もある。絹絲を紡ぐものの意。

マフィンマ、マシンマ(阿)　正午。眞晝間の意。アーマフィンマ參照。

マブイ、マブリ(上嘉)　靈魂。又幽靈の意にも用ひられる。着物の肩先が破れてゐると、そこから靈魂が拔け出すといふ俗信がある。

イチ・マブイ　生靈。

マブイ・クッピ　夜間猫が奇聲を發して啼く事にいふ。猫が人の靈魂を括つて彼の世へ持つて行くの意で、この聲を聞くと近く死人があるといふ。現今ではこの信仰は殆んど薄れてない。

マブイ・ヂャーリ、マブッヂャーリ　靈魂が人體から脱出する事。突然物に愕いた刹那などに是があるといふ。次項參照。

マブイユシ　魂寄せ。巫女が、人體から脱出した靈魂を呼び戻す呪法。前項參照。

マフクミ　滿潮。其日の最高度の滿潮。マッサリに對す。

ママサー　繼父。ママウヤともいふ。

ママサー・アンマー、マンマー　繼母。

ママサー・ッカー、ママッカ　繼子。

マミ　豆。

マミ　腎臟。

マミガラ・ニシ　舊曆九月頃に吹く強い北風。普通の大豆は舊曆七月に取入れるが、マミンカーといふ大豆は九月に取入れる。その豆の穀を吹き飛ばして吳れる北風の意といふ。

マミシュイ　まぶす、まみせる、塗りつける。例へば黑砂糖に麥粉をまぶせる等。

マミッカシュイ　胡麻化す——ちよろまかす。

マミンガ　近邊。ミーミに同じ。

クラッサー　ヌ　マミンガ　高藏の下、の、あたり。

マヤー　猫。

マヤンスクー　木兎——みゝづく。

マユ、マウ（阿）　眉。ミマユに同じ。

マユイ　糞を放る。古語まる。

マユグル（老）　眉黑——美人を形容して言ふ語。イルヂル・マユグル・メラビ等といふ。

マラ　男根。

マリー（上嘉）、**マイー**　少女、又は女の鄙語。

マリケー、マネィケー　時偶。鹿兒島マネケ。

マリケー　ニェー　アスビンニャ　クー　たま、には、遊びに、來い。

マリマーリ　久し振り。

マリマーリ　ミンダシカ　クンデール　久し振りで、珍しい、ことです。——久し振りに人に逢つたときに云ふ。

マリ・ユーエー　出產祝。子供の生れた第一夜に近親寄つて母子の無事を祝ふ。カ・ユーエー參照。

マリユイ、ウマリユイ（小野）　生れる——子供が。又酒、醬油、作物などの出來のよい事にもいふ。例「今年はさつぱり大豆のマリラン（不出來の）年ぢや」。

マルー　圓。

マン・マル　まんまる。

マルサイ　圓い。

マルシトゥー、マルガー　丈が非常に低く、その割に横の張つた者。

マルチ　周り約一尋位の束、タバイの大なるもの。それを數へる時は、チュマルチ、タマルチといふ風に云ふ。タバイ參照。

マッチュイ　右の大束を圓めて綱で縛る。タバイにはタバユイといふ。

マルファー・ヒー　植物の名。あかめがしは。圓葉木の義。

マン　廻り合はせ――まん。

マン　ヌ　ワッサタ　まん、が悪か、つた。

マン、マヌ(老)　絹絲。

マンワタ、マワタ　眞綿。

マン　シチュイ　眞綿から絲を紡ぐ。

マンゲーユイ　ひつくり返る。「マンゲー　ヘーユイ」ともいふ。

マンゴイー、マンゲリー(小野)　旋毛。

マンチュイ　手招く。

マンディユイ　混ぜる。

マンディ・マンディ　まぜこぜ。

マンナボー、マンナブー　厩。

マンニー　滿載――馬の荷物に言ふ。普通六マルチをチュカラ（一カラ）と言ひ、チュカラを以てマンニーとする。

マンヌヌ(老)　紬。マン參照。

マンビュイ、マンヂュイ(阿)　人が物を食つてゐるのを、さも欲しさうに見守る。

チュニ　ムン　マンバシバ　ミッカー　ナユンドー　人に、物(を)、食つて見せて欲しがらせると、めくら(に)、なるぞ。

マンビュイ、マンヂュイ(阿)　牛馬山羊等の綱を長くして草原で自由に食はせる。

マン・メー　馬草、又は馬に與へる食物。・サ參照。

〔ミ〕

ミ　烈しく命令する語。

イカミ　行かぬか――行けと命じても行かない時に重ねて命ずる時など。

ミ　相手の意志を輕く訊ねる語。

イチュミ　行くか――行き度いなら行くか、と言ふ語感。

ミー　目。

ミー　ウトゥシュイ　目を落す――死ぬこと。

ミー　マックル　ナユイ　目(が)、くらむ。目がまつくらになるの義。

ミー　ムディッチュイ　老人の視覺に云ふ語で、細かい物を見る時ちら〳〵してはつきりしないの意。ムディッチュイはひねり切る。

ミー　ヤ　シン　ナチ　目に溢れるやうな愛嬌を湛へて――。子供が笑ふ時の表情などにいふ。

ミンタマ　眼球。又は眼の鄙語。

ミー　め――小孔。細い目、笊の目等にいふ。

ミーフガー　ミーと略同意に用ひられるが、多くは穿たれた小孔に言ふ。フガーはブガシュイ即ち穿つの名詞形である。

ミー　肉。

ミー　接頭語。新――。

ミー・フミ　新米。

ミー・ヤー　新築の家。シンヤとも言ふ。

ミー・ムン　新しい物。

ミー・イトゥク　みいとこ――曾祖父母が兄弟姉妹に當る關係。

ミーグロー　眼が大きく飛出してゐる者にいふ。

ミーサイ　新しい。

ミーッカ　姪。

ミートゥ　三つ。順序數の場合はミー。

ミートゥワラビー　三つ兒――幼兒といふ意味で言ふ語。

ミーナミ　雌波。潮の引いた後が乾いて、自然に鹽が出來てゐる場合、其處へ寄せた波は女波だとされ、鹽が出來てゐなければウーナミ即ち雄波とされる。

ミーフー、ミンブー　ものもらひ――瞼に出來るもの。これは竈の土に混ぜてある藁で撫でると癒るといふ。

ミーファギー　目腐れ。

ミーファッチー　瞼に傷痕のある者。

ミーファヤー　篩、目の大きいもので豆類を選るに用ひる。ブンニャマー參照。

ミーミ　近邊。

ヂャーン　ミーミ　何處の、邊。――何處いら。

ワンナー　ヤーン　ミーミ　私達の、家の、近邊。

ミーミー　新芽。ミーともいふ。

ミーミー(兒)　ねんね。

ミームン　動物の雌。

ミーン・マ　雌馬。

ミーユイ、メーユイ　生える。

ミカン・トゥックイ　うす馬鹿、うすのろ。充たぬ德利の義。

ミサ　子供が嘘をした時にミサと言ふと止まるといふ。大人にはクスクライ(糞食へ)と言ふ事がある。

ミサチ　崎。

ミシ　飯、食事には云はない。ウバニに同じ。

ミシ、ミシヤ　店。

ミシゲー　しやもじ。鹿兒島メシゲ。

ミシダー　薄い雜炊で野菜を多く入れたもの。貧しい食物とされる。普通の雜炊はドゥーシー。

ミシッカラン　久し振りに會つた人の容貌が變つてゐるので、見分けが付かないといふ場合などに用ひる語。

ミシッチュイ　前項の場合、又は赤ン坊が親の顏を見分けるといふやうな場合に云ふ語。

ミショーリ、ミソーリ(阿)　召上れ。カミの敬語。

シャー　ミショーリ　お茶をお上りなさい。

ミショーインショーリ　召上れの最敬語。

ミスーカ、ミッカ　沈默すること、又は內證。古語みそか。

ミスーカ・シ　ウリ　だまつて居れ。又は內證にして居れ。

ミチ　道。

チカ・ミチ　近道。

ミチ・ブシン　道普請。

ミチ　すべ——方法。

ウマ　ヌイ・ミチ　シッチュラン　馬(に)、乘るすべ(を)、知らない。

ミチャ　土。ムタ參照。

アー・ミチャー　赭土。

ミチャーシ　三日目。

ミチャミ　見たか——それ見たことか。

ミチャムドゥイ　結婚式があつて三日目、夫婦連れで妻の親元へ禮に行く儀。

ミヂュー　溝。

ミチュイ　滿つ。

ミクシュイ、ミチュイ　滿たす。

ミチュナティ　一昨年。

ミッカー　盲人。

パイ・ミッカー　明盲。目が開いてゐて見えない者。又字の讀めない者。

ミッカー・ファクラチ　利も損も考へずに夢中になつて働くことを笑つていふ語。

ミッキュイ　見つける。

ミッシ　まばたき——瞬。又はめくばせ。

ミッシ　シュン　マドゥ　ニ　まばたき、してゐる、間、に。——ほんの暫くの間に。

ミッチェー、メーチャー(小野)　額。

ミッチェー　ニ　ウマトゥ　カティ　カラ　ビ　ナユン　ニ　額、に、火(が)、付いて、から、間に合ふ、か。

ミッチョー　片眼。イッチョーに同じ。

ミドウ、ミヅ(小野)　水。

ミドウ　馬に水を飲めと命ずる語。ミにアクセントを附けて發音する。

ミドウーサ・エール　お目遠う、ございます。――お久し振ですねの挨拶。ウガムイの條參照。

ミドウスヂ　水筋、――海上の船の通行するみちすぢ。

ミトウファー　三つ葉。ミトウファ・ドゥイーともいふ。これは三つ葉芹の意であらう。

ミドウバナ　昔祝女(ヌル)が禊に用ひ、又神に上げた神聖な水。此の水は山中の一定の泉の水で、一般人は使用する事が出來なかつた。現今では其の跡を殘すのみ。神に捧げる水には、今でも斯く言ふことがある。ウシュバナ參照。

ミドウバン　田に水を引く順番。雨が遠くなつて水の尠い場合は、田の畝數に應じて流水の量を割り、時間を定め、順次水を引く。斯くする事を水番を立てる(タティュイ)といふ。

ミトウブシ　手品。目潰しの義。

ミドウブネィ(老)　沈沒船。沈沒する事を水舟になるといふ。ウシュブネィ卽ち汐船ともいふ。

ミドゥ・フンヂ　湧泉。

ミトウミンナ　三本綏の繩。

ミドウ・ムトウ　水流の源。

ミドー　見込み。例「もう助かるミドーはない」。九州方言にメド。

ミトーンナサイ　みつともない。例「人中でそんなミトーンナカ事するものでない」。

ミナ　接頭語。盛んにといふ意を表はす。

ミナ・ファシ・シ　一散走り、して――。

ミナ・ウイ　ウリョー　一生懸命に、織れよ。織りに織れよといふ語感。

ミナトウ　港。トゥマイに同じ。

ミナンカ　三七日の忌。

ミヌ　糞。

ミマール　見廻り――見張り。例「庭に豆を乾してあるから、鷄に食はれぬ樣よくミマールして居れ」。

ミマッチャ　睫毛。

ミマユ、ミマウ(阿)　眉。マユに同じ。

ミミ、ミン　耳。

ミンチャンバ　耳の鄙語。

ミミエー　甕や籠の八分目程迄――耳迄の意。

ミミ・クンヂャー　聾。

ミミ・クンヂュイ　聾になる。又耳元で大聲を立てられた時耳の痛むにもいふ。

ミミダー　みゝず。ビーヂャラーに同じ。

ミメー　氣絕――卒倒。眩暈の義。

ミヤク　都會。

ミヤクチー　舊暦七月の最終の壬（みづのえ）の日に行ふ一の折目。古くは一般に仕事を休み、子供は蜜柑投げをして遊び、又青年は通行人に泥を塗つて逃げる俗などもあつたといふ。此日朝食に必ず粥を食ふのでカイグンミといふ所もある。

ミユイ　見る。

ミンカーユイ　見える。

ミンカーラン、ミニカラン（歌言）　見えない。

ミローダマー　ネーン　見られたざまでは無い。

ミラン・ブーリ　見ぬ振り。

ミワ（老）　庭。ヤンメーを上品に云つたものといふ。

ミンダーユイ　珍しがる。

ミンダサイ　珍しい。

ミンダシ・ムン　珍しい物——珍品。

ミンダチ　着物の縫目でない部分を破つた時、ミンダチを破つた又は裂いたといふ。

ミンダチユイ　目立つ。

ミンダナー　流し。下屋（トーグヤ）の外側に別に小さい張出しをして、設けるのが一般である。

ミンダン　水奚。ウトゥシルに同じ。

ミンチャサイ　八釜しい。耳痛しの義か。

ミンチャ・フイチャ　烏賊の一種で、群をなして舟中に飛込み、舟を沈めるといふ。耳烏賊の義で、現今では食用にするが、昔は怖れて食はなかつたといふ。

ミンチラー　目の中に入る埃。

ミンチラーン　ピダ　ほんの少し——といふ形容。目に入る埃程の義。

ミンニャーガーヂャー　子供のよくする遊戯の一種で、一地點に直立して急速に旋回する。

ミンニユイ　廻轉する。又廻り歩く。ミグユイともいふ。

ミンガスイ　廻す。

ミンニユネィー　耳朶のつけ根のあたり。

ミンニユネィー　ヌチュイ　耳朶の根（を）、突く。——酸類を嘗めた時の耳朶の根元に起る感覺にいふ。

ミンバナクー　馬が耳を逆立てゝ人に立向はうとする姿勢にいふ。

ミンブヤー、ミンブワー（阿）　木くらげ——木耳。

ミンブリー　身慄ひ。

ミンメー　現在——今といふ時。目の前の義。

ミンメー・クラシ　明日はどうなるかといふ程逼迫した生活。其の日暮しの意。

ミンメー・フアドゥシ　一時のがれ——後はどうでもよいといふやり方。ハドゥシは外し。

〔ム〕

ム　助詞。も。ンとなる場合もある。
ワン　ム　ダ　ム、ワヌン　ダン(阿)　我、も、汝、も——。誰も彼もの意。

ムー　藻。

ムイ　丘陵。ヤマともいふ。

ムイ・ナ　かはいさうな、氣の毒な、あはれな。
ムイ・ナ　ムン　ヂャ　可哀想な、もん、だ。
ムイ・ナ　ニンギン　ヤー　あはれな、人間、よ。憐れむべき奴だといふ樣な意。

ムイン　無理に——强ひて。
ムイン　イカンティム　ユタサイ　强ひて、行かなくても、よろしい。

ムガイ　むづかり。ガチ及びヤカラに似てゐる。
ムガイ　シュイ　むづかる。
ムガイー　駄々子。ガチーに同じ。

ムカシ　昔。老人は大昔の事を「ムカシ　シンシン」といふ。

ムカシ・ガタイ　昔語り。過去の思ひ出話。

ムカシ・バナシ　昔話——民間説話。

ムキユイ　剝ける。
ムチュイ　剝く。

ムシ　蟲。
ムシ・キダ　蟲けら。

ムシ(花)　ぢやんけん。アイクに同じ。

ムシガー、ムスワー(阿)　鸞。近時カイゴといふ者が多い。

ムシユイ　むせる——噎る。

ムシユイ、ムスイ(阿)　蒸す——湯氣で熱する、又は蒸し暑い時のむす。ハッチュイ參照。

ムタ　常にねば〳〵して水分を含んだ黑い土。

ムタイユイ　長持ちする——保ちがよい。

ムタブイ(嘉)、**ムタビュイ**(小野)、**ムタニュイ**(阿)　弄ぶ——いぢくる。
ムタニャーシュイ　盛んに弄ぶ。
ムター　ムタブイの名詞形。いぢくること。「ムター　シュイ」とすれば、いぢくるの意となる。

ムチ　各個人の自由。銘々の勝手。
ダー　ダー　ムチ　ワノー　ワー　ムチ　お前は、お前の、自由、俺は、俺の、自由。——何もお前が斯うだからと云つて、自分も斯うで無ければならないと云ふ事はないの意。

ムチムチ　別々。思ひ〳〵。まち〳〵。

ムディユイ　捻る——もぢる。

ムヂッチュイ　ねぢ切る。又抓るの意に用ひられる事もある。

ムダユイ　ねぢける。

ムッチンカー　菓子。但し島で出來る米麥の粉で造つた押菓子にはカシと言ひ、内地より移入する菓子の事をムッチンカーといふ。カーは指小辭。

ムッカサイ　むづかしい。困難である。又彼是と苦情を言つてうるさい事にもいふ。

ムッカシカ　シグトウ　むづかしい、仕事。

ムッカサン　ワラビ　苦情を言つてうるさい子供。

ムッシュイ、ムッスイ(阿)　毟る。

ムッシャーシュイ　盛んに或は亂暴に毟る。

ムッチー　餅類の總稱。

ムチグミ・ムッチー　糯の餅、——正月のお節餅。

ハサー・ムッチー　米麥等の粉と甘薯及黒砂糖を搗き混ぜて細長く握り、月桃の葉やハサギと稱する木の葉で包んで蒸したもの。折目の時に屢々作られる。ハサーは木の葉の事。

カン・ムッチー　水に浸けた米を黒砂糖水で豆腐を碾くやうに碾いて、カン箱に入れて蒸した一種の奠。盆や法事の時に必ず作る。

ムッチャギユイ　持ち上げる。

ムッチャティユイ　たつぷり盛立てる——飯などを。

ムッチャンギユイ　借物を返さないで自分の物にする。借金などを踏み倒す。

ムトウ　草木の根、事の根據、以前、本金。ネィー參照。

ムトウ　ドウ　ムトウ　ナユル　スラ　ヌ　ムトウ　ナユン　ニャ(諺)　木、ぞ、木に、なる、末、が、木(に)、なる、か。——物事の本末の理を說いた教訓。

ムトウ　トウンヂラン　本金さへも儲からない。トウンヂランは取り出せない。

ムドウシ　接尾語。回。フイに同じ。

イク・ムドウシ　ム　幾度、も。

ムドウシュイ、ムドウスイ(阿)　戻す——元に戻す。返す——返却する。

ムトウドウイ(老)　村の有志——村事に關係してゐる主立つた人々。元取りの義。

ムドウユイ、ムドウウイ(阿)　戻る——歸る。

ムドウラシー　歸り途。ムドウイーともいふ。

ムナ　接頭語。空——。カラ參照。

ムナ・アッチ　むだ歩き。

ムナ・ファタラチ　得にならない働き。徒勞。

ムナ・ナンヂ　むだ骨折り。

ムナ・ムン　空つぽ――中に何もない事。

ムナ・ヤー　留守の家。

ムニ、ムイ(阿)、ムギ　麥。

イニャ・ムニ、イヤ・ムイ(阿)　小麥。イナ・ムギ即ち小さい麥の訛。

ムニュイ　揉む。

ムンヂャーシュイ　もみくちやにする。

ムネィ　胸。

ムネィ・バラ　胸壁。

ムネィ・クンヂュイ　食物が胸に支へる。又言葉が支へる（言ひにくくて、又どもつて）。

ムネィ・ヤンメー　胃病。――ひきつつて痛む病。ハシリ・ムネィといふのは其の最も急性なもの。

ムヌ(阿)　少しも――ないと否定する語。

ムヌ　ヂェー　ネーン(阿)　さつぱり、興味(が)、ない。

ムヌ、ムル　接頭語。全部――全然。諸の義。

ムヌ・フブシー　フブシ　全部（少しも殘らず）こぼして了へ。

ムヌ・ワッシー　胴忘れ。

ムヌイッキ　教訓。例「中々良く出來る子供達だが親のムヌイッキが足らん」。ユシグトゥ參照。

ムヌ・ウムユイ　物心がつく――子供に對して云ふ。「ショー　クーユイ」ともいふ。

ムヌ　ウムワン　子供が物心つかない。又相當の年をしてゐて世事に疎い。

ムヌ、ウモーチ　どう致しまして。有難うと禮を言はれたに對していふ語。物を申して――の義。

ムヌミー　ひどく思ひ惱む事。例「子供に死なれてムヌミーしてゐる」。又非常に懲りたといふ時にも、例へば「溺れてムヌミーした事があるので、二度と海へ行かない」等と用ひる。ウミーヂ參照。

ムミ　粃。

ムミン・クフー　粃穀。

ムミンカー　紫色。

ムム　桃。

ムム　股。アッテーに同じ。

ムヤ　昔の墓穴。山の斜面の巖を、入口は小さく中は三疊乃至六疊敷程の廣さに掘り、其の中に死棺を並べて風葬したものだが、數十年來全く土葬に變つて、今は廢墟となつてゐる。

ムユイ　摘ぐ――果實にのみいふ。

ムギュイ　挽げる――果實に限らず固着したものが取れる。

ムエー　もやひ――賴母子。

ムラ　村。普通に部落のことを云ふ。シマ參照。

ムラーサー(阿)、**ムンアーセー**　謎々。物合せの義。

ムラヤドゥ、ムナヤドゥ　村の集會所。

ムルミ　もろみ——酒の原料。タリマーに同じ。

ムレー、ムレーサー　乞食。モーレーに同じ。

ムン、ムヌ(老)　物。

ムン　朝飯——八時頃に食べる——ヒンマヂキに同じ。又食事や食物にもいふ。

ムン　サダミュイ　食事の膳拵へをする。——直ぐ食べられる支度をする。サダミュイは定めるの意か。

ムン　悪靈、妖怪、鬼神の類にいふ。

ムン　ニ　ムタリー　夜道などで、悪靈の類に道を迷はされることを云ふ。

ムンガー　味噌瓶の中に湧く小さい羽蟲。

ムンカーユー(兒)　まゝごと。物借りの義か。阿傳ではガンドーといふ。

ムンサルー、ムンサヌー　間食——お八つ。晝食(アレ)の前十二時頃飲む茶にいふ事もある。

ムン・シラシ　凶事のしらせ。夜間異様な音響があつたり、先祖棚に變つた事があつたりすると、これを凶事のしらせであるとして、占者に解いて貰つてその言ふ通りにする。ユシに同じ。

ムンタンネィ　尋ね事——物尋ね。

ムンタンネィ　セーラ　お尋ね致します。——一寸お訊きしますがの意。

ムンチライ　或る食物を嫌ひ或は禁厭する事。例「彼は大病を患つてから、ムンチライするやうになつた」。

ムンドゥチ、ムンディチ(老)　ものずき。例「ムンドゥチして買うた馬だけあつて、實に立派だ」。

ムンドゥミー　間抜け、愚鈍な奴。——罵詈する語。

ムンヌフィー、ムンビー　夜間山の斜面や海岸に點滅する怪火。いさりをする漁者の火を奪ふ事もあるといふ。

ムンニャシュイ　場所を移す。例「馬小屋は方位が悪いので、家の後ろへムンニャシュン（連體形）事にした」。

ムンワッシ　物忘れ。例「齡老つた爲かムンワッシが多くなつた」。

ムンワレー　世間の物笑ひ。

〔メ〕

メ　助動詞。まい。

チュイ　ヂェー　ディキル　メ　一人、では、出來る、まい。

メー　牛を呼ぶ語。メーヨ又はミョー等ともいふ。

メー　前——前方の意のみ。

メー・フシ　前後。——時の場合にはアトゥ・サチと言ふ。

メー　接尾語。——の分。分け前。

ワー・メー　私の分。自分への分として割當てられた物。ワー・タマスともいふ。

メース　おべつか——媚。鹿兒島メス。

メースー　阿諛者。

メーハミ　雌馬の前髪。

メービ、メービー　貫似。

メーユイ　燃える。

メーシュイ　燃やす。

メーラビ　乙女――未婚の乙女。

メーラビンカー　小乙女――十四五歳の少女。

メンガ、メンガ　溫順な者。

メンガー　よい子――おとなしい子。

メンガ　ヂャ　よい子だ。子供が良く言ひつけを聞いたり、おとなしくして居たりした場合にいふ。

〔モ〕

モーキユイ　儲ける。

ハネィ・モーキ　金儲け。

モーキタ　儲かつた。あゝ良かつたの意に用ひる事もある。ヌサリタともいふ。

モーレー　乞食。ムレーに同じ。

〔ヤ〕

ヤ　助詞。は。この語は大抵前の語の語尾に融合される場合が多い。

ツル　ヤ(小野)、トゥルア(阿)　鶴(女の名)、は。

ヤマー　山は。

トゥエー　鳥は。歌では「トゥリ　ヤ」。

ワノー　私は。歌では「ワヌ　ヤ」。

ヤ(阿)　疑問の助詞。か。ヨに同じ。

ヂャーイ―ヤ(阿)　何處へ、か。――何處へ行くのだ。

ヤー　感動詞。よ。

シュラサ　ヤー　美しい、事よ。

ヂェー　ヤー　面白い事、よ。

ヤー　あのね。

ヤー　インガ　ねえ、君。

ヤー　家。

ヤー　シュイ。　家(を)、葺く。家をするの義。「ヤー　フチュイ」ともいふ。ヤッカ參照。

ヤー・ユーエー　新築祝ひ。
ウィン・ヤー　山の手の隣家。
サン・ヤー　海側の隣家。
フェン・ヤー　南隣の家。
フシン・ヤー　後隣の家。

ヤー　接尾語。動詞に付いて――する人といふやうな意を表す。この語を用ひて、其時々々に必要な語を自由に作る事もある。

ミヤー　見物人。
セーヌニャー　酒呑み。

ヤーサ・ドゥシ　饑饉年。ユワサ・ドゥシ即ち饑じい年の義。

ヤー・タチュイ　嫁入する。タチュイはたつ。
ヤー・タティユイ　嫁にやる。タティユイはたゝせる。

ヤウチ　家庭――やうち。
ヤウチ・ヌ・シメー　家庭内の締り。

ヤー・ティー　家内中――家内全部。

ヤートゥ　八つ。順序數の場合はヤー。

ヤー・ヌッチュ　家人――家の人々。

ヤー・ワーイー　分家した者――分家者。ワーイーは分れた者の意。
ヤー・ワーユイ　分家する。ワーユイは分れる。
ヤー・ワーシュイ　分家させる。ワーシュイは分れしめる。

ヤカラ　やんちや――小六ケしい事を云つてうるさい事。大人にも云ふ事がある。
ヤカラムン　小六ケしい者。亂暴者の意に用ひる事もある。
ヤカラ　シュイ　やんちやする。

ヤガリユイ　凋落する。
ワーサン　ムノー　タビ　カチ　イチファッティティ　シマー　ヤガリユン　ティトゥ　ヂャ　若い、者は、旅、へ、行き果てゝ、島は、さびれる、一方(一つ)、ぢや。

ヤクドゥシ　厄年。

ヤグマイ　閉居――病氣や謹慎で家に籠ること。家籠りの義。

ヤグラ　相撲の手の一。片足を曲げて相手をその上に乘せ、捻るやうにして倒す。さうして倒すことを「ヤグラ　トゥユイ(吊る)」といふ。

ヤサイ　醜い、又は悪い等の意がある。
カギ　ヌ　ヤサイ　容貌が、醜い。
ユミタ　ヤサ　言葉使ひが悪い。
ヤサン・ムン　悪人、性質の悪い者。

ヤシチ、ヤシキ(小野)　屋敷――宅地。アタイに同じ。

ヤシチ　寢床。

ヤシチ・ムンニエー　出産後五日目（必ずしも一定はしてゐない）に行ふ一の儀式で、近親が寄つてサングンの祝ひをする。此の儀式を行ふ迄、産兒は絶對に圍爐裏端から外へ出してはならない。ムンニエーは移轉の意。シラフヂョー、マリューエー▼參照。

ヤスー　椰子。

ヤセー　野菜。

ヤタ　若しか――ひよつとすると。例「ヤタ雨が降るかも知れないから、干物は入れて出よう」。

ヤチュー　灸。

ヤチュー　ヤチュイ　灸を据ゑる。ヤチュイは燒く。

ヤチュイ　燒く。又動物を屠る。

ヤチュイ　村の掟に反した者を制裁する。

ヤディー(小野)　八つ合せの繩。草履の緒などに用ひる。

ヤッカ　家、但し家屋の普請をする時にのみ用ひる語。例へば家を葺く事をヤッカすると云ふ。

ヤッキー　兄。若い夫婦間では妻が夫を呼ぶにも用ひ、又若い父を子供が斯く呼ぶ事も多い。

ヤッキン・カー　次兄。カーは指小辭。イナッキーともいふ。

ヤッケー　世話、厄介。

ヤッケー　ナユイ　世話(に)、なる。

ヤッケー　ヂャ　困つたものだ。

ヤッサイ　安い。

ヤッサ・ムッサ　いざこざ――何やかやとうるさい事。

ヤッサ・ムッサ　イユナ　何だの彼だのと、うるさく云ふな。

ヤットウ　やうやう――やつと。ヤットウ・カットウといふ疊語法もある。

ヤットウ　アインソーエール　お疲れでございませう。遠來の客などに云ふ挨拶。

ヤトウ　海岸にある深い淵。水底が青いところから、オー・ヤトウなどともいふ。

ヤドウ　宿。雨戸。雨戸にはトゥーともいふ。

ヤドウー　座敷牢、狂人を入れるもの。

ヤドウクチー　家の這入口。一般の家には玄關がなく、ハンヤドウ、ショーバシー、シャヌマ等から出入する。

プユ　ヤドウクチー　ニエー　マヂャムン　ムタタン　チドウ　イユル　冬の、戸口、には、魔、も、立たぬ、とぞいふ。冬の客を強ひて家の中へ招ずる場合などに用ひる語。

ヤナギサイ(小野)、**ヤネーサイ**(阿)　穢い。穢きといふ副詞形はヤネーカであるが、別にシタネーといふ特殊の語もある。

ヤバラサイ　軟い。

フネィ・ヤバラサイ　身體が弱い。骨軟かいの義。
ヤバラチュイ　柔くなる。——風など和らぐ、又は不和な者同志の仲がやはらぐ。
ヤバラッチャーナ　物柔かに——言葉や動作など。
ヤブリユイ　破ける。壞れる。壞れることにはヤンビュイともいふ。ヤリユイ參照。
ヤブリ・サイワイ　僥倖、又は不幸中の幸。
ヤブユイ　破る。
ヤマ　山、森、林、藪、丘陵。ムイ參照。
デー・ヤマ　竹藪。
ガヤ・ヤマ　茅原。
タティヤマ　植林した山。植林する事を「ヤマ　タティュイ」卽ち山を立てるといふ。
ヤマ　鼠取りのわな——板で自作するもの。
ヤマイム・フユイ　酒などを飲んで亂暴する。又何かに怒つて亂暴する。鹿兒島で「ヤマイモホッ」。
ヤマナユイ　かん〳〵に怒つて、人に食つてかゝる。
ヤマサ　樵（きこり）。大島語の輸入されたもの、此の島には專門の樵はゐない。
ヤマサー　大分——かなり。例「ヤマサー潮が滿ちて來た」。
ヤマトゥ（老）　日本內地——主として鹿兒島を指した。大和の義。
ヤマトゥ・アヂンカー（阿）　頰かむり。フナトーマチに同じ。アヂンカーは爺さん。

ヤマトゥ・グチ　日本語——標準語にいふ。
ヤマトゥッチュー　內地人。
ヤマトゥ・フィーヤー　植物の名。いぬひゆ。大和ひゆの義。
ヤマトゥ・マイー　尻からげ。大和尻の義。
ヤマトゥ・ムスビ　繩の結び方の一。堅く解けない結び方で、茅屋根を葺く時などに用ひる。
ヤマナンヂャー（阿）　蜥蜴。
ヤミュイ（小野・早）、**ヤムイ**（嘉）、**ヤニュイ**（阿）　痛む。病む。
ハマチ　ヤミュイ　頭（が）、痛い。
ミー・ヤミャー　眼病患者——眼病み。
ヤミユイ　やめる——止める。
カン・ヤミュイ　放棄する、うつちやる——自棄的な意味で。
ヤリ（小野）　盛んに、一生懸命。
ヤリ　ファシリ　一生懸命に走れ。
ヤリユイ　布や紙などが破ける。
ヤリ・チヌー　破けた着物。
ヤユイ　裂く——紙や布などを。
ヤンサミユイ　慰める——宥める。

カヤンサミリ　泣いてゐる子を宥めよ。

ヤンシュ　月のない夜の干潮――闇潮。

ヤンスー　しかめ面、――酸つぱい物を食つた時の顏面表情など。

ヤンチム　是が非でも。・チャム又はチットゥム參照。

ヤンチム　イチュン　チム　イユイ　どうでも、行かう、と、云ふ。

ヤンチュ　昔の下人、家の人の義か。ヌザ參照。

ヤンチュ　來々々年。ナンチュの翌年。

ヤンドゥチ　大きな木の槌――さいづち。

ヤンバー　山彦。

ヤンブー　茫々と伸びて亂れた髪。

ヤンメー　病氣。――一寸した病氣にはアンベーワルー、又はハディシチ(風邪)などゝいふ。

シニ・ヤンメー　助からない病――不治の病。死に病の義。

ヤンメー　庭。家の前の義。

ウムティ・ヤンメー　母屋卽ちウムティの前の庭。

トンガン・ヤンメー　臺所卽ちトーグラの前の庭。

ヤンモーユイ、ヤスモーユイ　お寢みになる――ネインブイの敬語。

ヤンモーイン　ソーリ　お寢みなさい。

〔イ yi〕

イー　善き――良き。

イー　クトゥッサ　よい事をしたの意であるが、あゝ良かつたといふ時によく用ひる。

イー　藺。

イー・ダー、イー・ヂャー　藺田。

イー　夕食――七時から八時頃。

イー　ゆひ――結。イー・タバーともいふ。タバーは束の意か。勞力を交換的に仕事をする事。祝祭法事の贈物も特に援助的な意味を持つもの、例へば豆腐やカン等はイーで行はれる事がある。イン參照。

イーヂー　ゆひのやり取をする事。仕事、物品、招待等の凡てのやり取――應答にいふ。

イー　ファラユイ　ゆひを返す。ゆひは借金だといふ言葉がある。ファラユイは拂ふでムドゥシュイ卽ち戻すともいふ。

イーグリー　醉ひ泣き。醉ひ狂ひの義。

イーダン　巫女が神と談義する事といふ。

イーイ、イーリ(上嘉)　女からその兄や弟を云ふ。例「あなたはイーイ何人ありますか、私は兄一人と弟一人あります」。ウナイ參照。

イールー　縒り――縒つた紐。紙縒りにはコーイルーといふ。

イダイ　からすき――犁。古語ゐさり。

イドウ　繪圖。ニンニョー參照。

イドウ　餌。鹿兒島エド。

イヌイ、イヌーイ　丸一年、――この語は子供の生後一ケ年をいふに用ひるのが普通である。

イヌイ・ナシ　年子を産む事。一年産みの義。

イバン　部落の雜役をする小使。

イユイ　貰ふ、自分の物にする。得るの義か。

イリ　汝の物にせよの意で、物を人に與へる時上げようと云ふのと同じ樣に用ひる。

イユイ　坐る。

イッシレーユイ　不行儀に坐る。坐り平がるの義。

イシュイ　坐らせる。又は据ゑる、鍋をかまどに据ゑるなど。

イン　緣。

イン　ヌ　ネーラン　運命的に緣の結ばれない事にいふ。緣がないの義。

イン　接頭語。同じといふ意を表す。イー卽ちゆひと同語根か。

インサー　同じ程、――物の量の。

インテー　同じ高さ。

インピダ、インピー　同じ太さ。

インムン　同じ物、同樣の物。

インガ、インガ（上嘉・浦）　男。古語ゐが。

インガン・カ　男の子。

インガーラビ　童子。――少年といふに似てゐる。女の子をウナーラビといふに對してゐる。

チュトゥ・インガンカ　一人息子。

ヤー　インガ（上嘉・浦）　ねえ、君。

インディ、インチュ（老）　遠慮。

インディ　シンソーリナ　どうぞ、御遠慮なく。

インドウヤー、インドウンガー（阿）　雀。

〔ユ〕

ユー　世の中。時代。

アサユ　ミチ　夭折した。淺世を見たの義。

ユー　ミラン　夭折する。世を見ぬの義。

ユー　ワ　トゥントゥン（諺）　世は次々。子々孫々に代を次ぐ順理をいふ。

ナファ・ユー　琉球治下時代、那覇時代の義。

ユー　接尾語。動詞語根に付いて、――する物の意を表す語。

カミ・ユー　掴む物即ち把手。

ヂー・カチ・ユー　字を書く物、鉛筆や筆など。

ユー　副詞。よく――善く。

ユー　イチャ　よく、言つた。

ユー　シリ　注意せよ。

ユーイ、イートウ(老)　勝ち誇つた時、思はず發する間聲。

ユーカマシ　赤ん坊に湯浴させる事。カマシは食はせるの名詞化せるもの。

ユーキ　夜更し。夜起きの義。

ユーサー　啞。

ユーヂン　用心。

ユーヂン　便所を上品に云つた言葉。シンチン參照。

ユートウ　四つ。順序數の場合はユー。

ユーネィ　便毒。ユーネィンダグの事にもいふ。

ユーネィンダグ　股の付根にあるごり〳〵。プデーダグ參照。

ユーファラン　大したことはない――つまらない。例「うんと降れば良いがユーファラン雨ぢや」。

ヌー　スミティム　ユーファラン　何(を)、させても、碌に出來ない。

ユームイ(嘉)、**ユーミュイ**(小野)、**ユーニュイ**(阿)　休憩する。休む。ユクユイに同じ。

ユーミ・ユーミ　休み〳〵。

ユーユイ、ユーウイ(阿)　醉ふ――酒や船などに。

ユーイッサリユイ　醉ひしれる。醉ひ腐るの義。

ユーイッサリー　醉ひどれ。

ユーイッチュ　醉つた人。ピックミーの意にも用ひる。

ユーユイ、ユーウイ(阿)　結はへる。

ハマチ　ユーユイ　髪(を)、結ふ。

ユーエー、ユーエー(小野)　祝ひ。祝ふ事には「ユーエー　シュイ」。

ユアミ　闇夜。ヤミヌユともいふと。

ユイ　海膽。ガスター參照。

ユイキ　寄木――漂流して打上げられた木。ユイブクともいふ。

ユイドウシ　潤年。寄年の義。

ユイドウチ　潤月、同じ月が二度重なる月。

ユカ　接頭語。良――。

ユカ・ムン　良い物。又滅多に見せられない程の良い物――もつたいをつけて言ふ。

ユカ・クトゥ　良い事。又滅多に聞かされない様な良い事。

ユカ・ドール　良い處。又或る良い處――滅多に聞かされない様な。

ユカ　床。

ユカッサー　床下。

ユガミュイ(小野)、**ユガムイ**(嘉)、**ユガニュイ**(阿)、**ユワ|ニュイ**(阿・老)　歪む。

ユガー、ヨーガー　歪める物。

ユカリッチュ　昔の役人階級――旦那様階級。平百姓から尊敬された。

ユカロ　よからう。

ユギ・ダナ　夜具を納める戸棚。

ユク　慾。

ユク　シュイ　慾(を)、する。――慾ばる。

ユクヂャー　けちんぼ。

ユクッサリー　慾深者。慾腐れの義。

ユクユイ　憩ふ。ユームイ參照。鹿兒島ユクヲ。

ユクワユイ、ユクワウイ(阿)　經濟になる――省ける。例「製糖車が動力になつたので、大分人手もユクワイ(省かり)入費もユクワタ(經減した)」。

ユゴーサイ、ユヲ|ーサイ(阿・老)　痒い――植物の毒に中つた場合の感覺にいふ。

ユサイ、ユサリ(上嘉)　今晩。今晩はといふ挨拶に相當する語はない。

ユシ　凶事の兆――しらせ。ムンシラシに同じ。

ユシグトゥ　教訓の言葉。親の教訓、昔の人の教訓といふ場合に用ひ、教訓するにはムヌッイキするといふ。

ユタ　巫女。ブドゥンガナシに同じ。

ユダイ　涕。

ユタサイ　良い――立派である。又單獨によろしい――それでよいの意にも用ひる。

ユタミチュイ　どよめく。

ウミ　ヌ　ユタミチュイ　海、が、動搖してゐる。――波が起つてゐるの意。

チュ　ヌ　ユタミチ　ウイ　人、が、大勢ごつた返して、ゐる。

ユチ(老)　霰。雪の義。此の島に雪は降らない。

ユチャー　ふだん着。チンの條參照。

ユヂャー　染めた絲を湯に濯いで艶を出す事。水で濯ぐをミドゥ・ユヂャーといふ。

ユチュナティ　一昨々年――ミチュナティの前年。

ユッカ、ユッカム、カム　よりも。事物を比較し、それを評定する場合にのみ用ひる。

ウリユッカ　フレー　ナガク　それよりも、これは、より長い。

ユッシュイ、ユッスイ　手離す。ユルシュイとすれば赦す。

ユッチュ　昔の村長格の役人、與人と書く。

ユッパサイ　木や竹などの弱いにいふ。例「この家は瓦を載せるにしては、柱がユッパサ（弱くて）いけない」。

ユドウ　停止、滯在。例「歸途大島でユドゥしたので旅程が長くなつた」。ユドゥミュイの名詞化か。

ユドゥサイ　猾い――とすい。例「お互ひにユドゥサン（連體形）考へを持つてゐては、村の仕事は進まない」。

ユドゥチ　水面の動搖。例「桶の水はユドゥチさせない樣に竹の葉でも入れて運ぶがよい」。

ユドゥミュイ（小野）、**ユドゥムイ**（嘉）、**ユドゥニュイ**（阿）　止まる、滯在する、休む。

ユデー　口論。イークーに同じ。

ユデー　のろま。次項參照。

ユデーサイ　のろい――活動が。ドゥンナサイともいふ。

ユデーユデー　のろ〳〵。

ユナ　和名ヤマアサ。多く海岸の砂地に生じ、黃色の五瓣花を開く。ハヂ參照。

ユナー　夜中。

ユナーサナ　眞夜中。例「隣りではユナーサナ水を汲んでゐるが、何事か起つたのではないか」。

ユンヌ・ユナー　夜の夜中。例「ユンヌ・ユナーに山の中で子供の泣聲が聞えたので――」。

ユナビ　夜業。阿傳ではグナビともいふ。

ユネィ　灰。ぺーともいふ。

ユビ　昨晩。

ユボーネー　昨夕。ユビとヨーネーの混成した語。

ユミ　嫁。

ユミヂョー　嫁さん。又鼠の事にもいふ。鹿兒島ヨメジョ。

ユミグトゥ、**ユニグトゥ**（阿）　經文。呪文。

ユミタ　言葉。又言葉の悶着。言葉の事を上品に言ふ時はクトゥバとする。

ユミタン・カー　囁き。カーは指小辭。

ユミクッサー　言葉の悶着。

ユミタ・ヂュラサ　言葉美し、言葉使の良い事。

ユミタ・ヤサ　右の反對に言葉使ひの惡いにいふ。

ユム　接頭語。實に嫌なといふ感情をあらはし、多く罵詈する時に用ひる。

ユン・パゴーカ　實に汚き、實に嫌な。

ユム・ヤシカ　實に惡き。

ユムイ（嘉）、**ユミュイ**、**ユニュイ**（阿）、**ユヌイ**（花）　讀む。數へる。喋る。

ユンチャンビュイ　しやべくる。

ユンチャブイー　おしやべり――饒舌家。

ユユ　骨骼の長さ――關節と關節の間の長さ。例「ユユの短い子は大きくならん」。古語よ(節)。

ユラッサラ　ゆらり〳〵――蹌踉として歩く樣。例「病み上りでユラッサラして歩く事もならん」、「酒を飲んでユラッサラして歩いてゐる」。

ユラユイ　寄合ふ、又は共同する。

ユライン　ソーランナ　食事中に來合はせた人に對し、一緒に食事しませんかの意に言ふ語。

ユラティ　ヌ　フォーラサ　デンドー　寄合つて、の、嬉しさ、ですよ。人を招待して、何も御馳走はありませんがといふ場合に述べる語。

ユラリユイ　ゆつくりする、滯在する。

ユラリティ　ウモーリ　御ゆつくりして、お出でなさい。

ユリ、ユイ(老)　百合。

ユンニュ・ファナ　百合の花。

ユル　夜。

ユンナシュイ　遲くなつて日を暮らす――夜になすの意。「ユン　クラシュイ」ともいふ。

ユルイ(浦)　ゐろり。ヂルに同じ。

ユルイトゥ　ゆつくりと、――通常客の應對に用ひる語。

ユルイトゥ　ナインソーリ　御くつろぎなさい――氣樂におなりなさい。

ユルイトゥ　ウモーリ　どうぞお構ひなく。

ユレー　集會。寄合の義。アトゥマイに同じ。

ユワサイ　ひもじい。

ユワサ　ドゥ　ウマサ(諺)　飢じき、ぞ、美味き。――空腹の時には不味い物でも美味しいの意。

ユワサイ　弱い。

ユワリ　せゐ――故。

ダー　ユワリ　スン・サ　お前の、せゐで、損(を)、した。

ユンギユイ、ユンギユイ(阿)　汚れる。

ユンガシュイ、ユンガスイ(阿)　汚す。

ユンクリー　夕暮。

ユンサエー　夜通し。ユドゥーシともいふ。

ユンナカ　世の中。

〔エ ye〕

エーウヤ　男の親。

エーユイ　痩せる。

エードーリ　シュイ　痩せこける。

エーダー　痩せた者。ヨーガリーに同じ。

〔ヨ〕

ヨ　疑問の助詞。か。但し何、如何及び人、方角、場所等の疑辭、不定稱に附いて強く問ひかける場合にのみ用ひる。ガ、カ及びナ參照。

ヌー　ヨ　何、だ。——何事か、何物かと訊く場合。後者には「ヌー　ムン　カ」とも言ふ。敬語は「ヌーデー　ヨ」。

ダー　シャッシ　カーケラリー　ヨ　汝は、如何に、考へられる、か。——どう考へるか。

アレー　タル　アティ　ヨ　彼は、誰、だつたか。

フマー　ヂャー　ヨ　此處は、何處、か。

ヨー　櫂。

ヨー　接頭語。ほのかに、微かに等の意がある。

ヨー・シンナイー(阿)　曉方ほのかに白みかゝる頃。

ヨーイ、ヨーリ(上嘉)　靜かに、そつと。

ヨーイ　ムティ　そつと、持て。

ヨーイ　ネインバチュキ　そつと、寢かせておけ。

ヨーガリー　痩せてひよろ〳〵してゐる者。

ヨーガリ・ヨーガリ　ひよろ〳〵——よろ〳〵。人にも物にもいふ。

ヨーシ　養子。

ヨーシ・ウヤ　養父母。

ヨース　樣子——有樣。

ヨース　ヌ　ヤサ　器量(容姿)、が、悪い。

イヂャン　ヨース　ヂャ　行つた、やう、だ。——行つたらしい。

ヨースー　容貌醜き者。この語は多く人を言ひくさす語として用ひられてゐる。

ヨーッシュリ　靜かにして居れ。「ヨーイ・シ　ウリ」のつゞまつた形。ヨーイ參照。

ヨーッシュキ　そのまゝにして置け——構はずに置け。

ヨートゥバッカイ　ほんの僅かばかり。

ヨートゥバッカイ　ヌ　シュテー　ほんの少しばかり、の、世帶。細々とした財産又は暮しの意。

ヨーナッティー　一昨々日。ウッティーの前日。

ヨーネー　夕方——たそがれ時に相當する。今夕(ユサイ)の意にも用ひる。ヨーネーハターともいふ。

ヨーンナーチャー　明後々日の翌日、卽ち其の日から四日後の日。五日目の事をヨーヌ・ナーチャヌ・ナーチャといふ。

ヨイヨイ、ヨーリヨーリ(上嘉)　ゆつくり〳〵。

ヨイヨイ　アッキ　ゆる〳〵、歩け。
ヨイヨイ　カチェー・アミ　デーラ　近々、へは、雨、でせう。あまり急でなく、そのうちに降るでせうといふ程の意。

〔ラ〕

ラ　推量の助辭。であらう。
イチュラ　行くであらう。
イヂャラ　行つたであらう。

〔ワ〕

ワー(老)　豚。ブタといふのが普通である。
ワーイ　別。フトゥと同じ様に用ひられる事が多いが、タトゥ・ワーイ(種類違ひ)、アンマー・ワーイ(異母兄弟姉妹)、ヤー・ワーイー(分家者)等の造語法がある。
ワーサイ、ワカサイ　若い。又身體の弱い事をカラダ・ワーサといふ。
ワーシ(老)　酒の量を表はす語。沸しの義。

チュ・ワーシ　一升。
トゥ・ワーシ　一斗。トゥワーサー參照。
ワーシュ　月の七日八日から十二・三日頃迄の潮にいふ。若潮の義。キーシュ參照。
ワーユイ、ワーリユイ　分れる、離れる。ワカリユイ參照。
ワカリ　離別。
ワカリユイ　離別する。アーリユイ參照。
ワカリ・グルサ　別れ苦しい——別れがつらい。
ワキ・シュイ　あやまる——言譯する。
ワキダンバトゥ(老)　分け斷髪即ち分け髪。
ワク　水田をからすきで鋤く事。
ワク　畏(いとまさ)——わく。
ワクッサー　腋下。ワチングメーに同じ。
ワタ　腹。
ワタンカー　小腸。
ウフ・ワタ　大腸。
ワタブー　腹の大きい者、又は滿腹。例「澤山頂いてワタブーしました」。
ワタッソー　大飯食ひ。

ワタッサリー　貪慾な者。腹の腐れた者の義。

ワタ・ネィーユイ　物を澤山食つて腹が太くなる。例「牛は野原へ連れて行つて草を食はせなければ、取つて來た草位ではワタ・ネィーラン(腹が太くならぬ)」。

ワタイリ　綿入の衣服。

ワタクシ　自分一個人の蓄へ——臍繰金など。

ワダナ、ワダイー　隨分澤山な。

ワダナ　ミヤー　ヂャタ　隨分澤山な、見物人、だつた。

ワダムン、ワザムン(小野)　業物——優れた人物の事。

ワチングメー　腋下。マゴーに同じ。

ワッサイ　悪い。

ワッチャメーユイ　辨償する。富山方言にワンマエル。マドゥユイ參照。

ワッチュー　米麥等を粉にして炊いた粥。

ワップ　割當て分配する事。

ワナイ　嫉妬。ディンチともいふ。古語うはなり。

ワベー　表面——うはべ。

ワボーイー　着物の上に更に着物を羽織る事。古くは羽織を用ひず、一般の婦女子は總てこの風をしたといふ。

ワヤク、ワーンク(阿)　からかひ——ふざけ。

ブリフー・シ　アンサン　チュニ　ワーンク　シラッタ　馬鹿な眞似(を)、して、澤山の、人に、からかはれた。

ワーンク・ユミター　冗談。

ワヤクユイ、ワーンチュイ(阿)　からかふ——ふざける。

ワラ　藁。

ワラン・シビー　藁の藁。

ワラン・ナー　藁縄。

ワラ　表。着物の表、又は風上などに用ひる語で、・サラに對してゐる。・サラ參照。

ワラッサラ　表裏——着物などに云ふ。沖永良部でウワラ・シャーラ。

ワラビ　童——子供。

ワラビ　蕨。主としてほしだにいふ。

ワリシュ　舊暦三月及び十月の潮、干度が一年中で最も高いので、今迄現れなかつた瀬が現れる。

ワン、ワヌ(老)　我——私。男女尊卑の區別なく自己を表す語は此の一語のみ。但し荒木の部落ではワッターとも云ふ。

ワー　私の。

ワノー　私は。

ワガ、ワン　私が。

ワンサバ　サバ(鯖)の一種。むしろ信仰上の怪物と言ふべきで、船と丈競べをしていくらでも身體を伸ばし、遂に船を呑むといふ。それで昔の航海には、船の舳艫に櫓を結び、船を長く見せてこれを防いだといふ。わにざめの訛であらう。

ワンダユイ、ワンダウイ(阿)　養ふ。

ウヤ・ワンダイ　嗣子——後取。轉じて長男。

ワンダイ・ガー　養ひ子。

ワンダユイ、ワンダウイ(阿)　家畜の牝を持主から預つて飼育し、產んだ仔を貰ふ制度で、さうする事をワンダユイといふ。仔が一匹の場合は其の仔を、雌雄なら雌を、又三匹の場合は二匹を飼つた者が貰ふ事になつてゐる。約束に依つて異つた方法もある。

〔キ wi〕

キー　上——天の方。山の手の方角——海の方角に對して。又は表座敷。・サ參照。

キー　桶。タングに同じ。

キーシュ　月の十四・五日から十九日頃即ち干止り迄の潮。干度が高く、引き時も夜半前後になるので、ワーシュに對し老潮といふと。

キーチャーユイ　子供が成長して小役に立つ程になる。古語およづく。

カンチャヤ　スダティル　ウチェー　アンマサン　ガ　キーチャーティ　クリバー　クヌシミ　ナ　ムンヂャ　子供達、は、育てる、うちは、つらい、が、追々役立つ程にもなつて、來れば、樂しみ、な、もの、だ。

キーッカ　甥。

キーッチュ　老人。キームンともいふ。

キービ　指。古語および。

キービンカー　小指。

ウヤ・キービ、ウヤ・ユビ　拇指。

キービン・ビダ　指の太さ——ほんの僅かといふ形容。

キーユイ　植ゑる。

キーユイ　起きる。——倒れたものが、又は寢てゐる者が。

キーシュイ　起す。

キーワ(阿)　初兒——うひご。

〔ヱ we〕

エーシユイ　差上げる――捧げる。

ハタティ　エーシリ　教へて、上げよ。

パトウ　カラ　エーシリ　お初から、上げよ（神佛に）。

エービ　わい〳〵喧噪する樣。わい〳〵にはエーエーといふ。

ヌカ　パマー　チユヌ　エービ　・シユソー　何事か、濱は、人が、喧噪、してるが。

エーバチャー　分配。分配する事には「タマス　ウチユイ」、「ワップ　シユイ」といふが、「エーバチャーシユイ」と言ふ場合は、澤山の者が分け合ふといふ樣な意になる。

エーユイ　分ける。分配する。

納本

著者
檢印
印

昭和十六年八月十日印刷
昭和十六年八月十五日發行

喜界島方言集

定價　貳圓八拾錢

著者　岩倉市郎
發行者　木田開　東京市麹町區丸の内二ノ二
印刷者　堀修造　東京市牛込區榎町七
配給元　日本出版配給株式會社　東京市神田區淡路町二ノ九
發行所　中央公論社　東京市麹町區丸の内二ノ二丸ビル五八八　振替東京三四　電話丸の内五三五―五三八

大日本印刷株式會社榎町工場印刷

本社出版の書籍中、萬一落丁亂丁等のものあらば即刻お取かへ致します。

908
149

全國方言集

柳田國男編

近刊
大隅肝屬郡方言集　野村傳四著
伊豆大島方言集　坂口一雄著
周防大島方言集　原安雄著
〔以下續刊〕

日本語のアクセントの研究　日本方言學會

近刊
〔執筆者〕神保格・佐久間鼎・大西雅雄・湯山清・大原孝道
服部四郎・池田要・小川武雄・柴田武・金田一春彦
日本語アクセントの綜合研究。目下組版中。

中央公論社發行

終